勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.

勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

―――――無言の威圧感を与えるヒュンメル―――――

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア／総代理店 大松貿易株式会社

大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

●第33回全日本総合選手権大会●

湧永薬品、ジャスコが昨年に続き〝王者〟の座に

第33回全日本総合選手権大会は12月16日から20日までの5日間、東京体育館で男子24チーム、女子16チームが集って栄冠を競った。

男子は、ここ数年常に覇を競い合っている湧永薬品と大同特殊鋼が、今大会も順調に勝ち進んで決勝対決となったが、後半に入って一気にスパートした湧永が逆転で大同を降し、3年連続5度目の栄冠を獲得した。

女子は、話題の韓国からの助っ人の加入で調子に乗る大崎電気が好調に勝ち進み、何と11年ぶりの決勝進出を果たして昨年の覇者ジャスコと対戦。試合は一進一退の好ゲームとなったが後半残り5分にジャスコが速攻を爆発させ、粘る大崎をふり切って2年連続4度目の優勝を決めた。

＜男子＞

▽1回戦

筑波大 35（17－12、18－12）24 氷見ク

○…最初のゲームで両チームとも立ち上がり、緊張気味であまり動きはよくなく、特に氷見クラブのパスミス、キャッチミスが目立ち、そのボールを筑波大が速攻へと結びつけ加点する。

後半も、若さに勝る筑波大が、氷見クラブのディフェンスを崩し勝利を得る。

中村荷役 31（16－9、15－16）25 桜門会

○…立ち上がり早々、ポストプレーから得たペナルティースローで先取点をものにした桜門会であったが、その後、地力に勝る中村荷役に速攻遅攻と連続得点を許し、また中村のGKの功守もあり、前半で大きく水をあけられてしまった。

後半に入り、桜門会は、荒いディフェンスから退場者を多く出した中村荷役に対して、互角に戦ったものの前半の点差は大きく、クラブチームにとって1回戦の壁は厚いものであった。

兵庫スワロー 26（8－9、18－11）20 日鉄建材

○…速攻の日鉄対テクニックのスワローの一戦は、若さあふれる日鉄が、走りに走りそのスピードにスワローつけきれず2本のペナルティーを日鉄がものにし、ペースをつかむ。しかし、速攻だけで攻撃が単調な日鉄は、しだいにスワローのペースに巻き込まれ、じわじわと追い上げられ25分に9－7、29分9－8と日鉄リードの大接戦。

後半に入り、3分スワローゴールを決め、同点と振り出しにもどる。このあたりからベテランをそろえたスワローのうまさが目立ち、相手とせりあった所から巧みにシュートを決めジリジリはなし、26－20でスワロー兵庫が駒を進めた。スワローのベテランの味、日鉄の若さあふれた好ゲームであった。

日体大 34（18－9、16－12）21 東京重機

○…GKの好守でディフェンスの弱さをカバーしている重機であったが、日体大の変化に富む攻めの前にはディフェンスの足がつけず、ダブルスコアを許した。

後半、日体大のディフェンスチェンジのブラインドをつき加点した重機、立ち直りかと思われたが日体大速攻、ツーポストのプレーが攻めの要所をしめ、ゲームの支配を常に握っていた。

日大 31（12－9、11－14、2－0、6－1）24 三景

○…延長にもつれこむ熱戦となったが、結局、最後は若い日大の体力勝ち。延長で3点を連取しつきはなした。三景にとって惜しまれるのは、後半20分すぎの日大のダブル退場につけこんでの一気の逆点ペースを続けられなかったこと。

早大 29（15－11、14－16）27 トヨタ車体

○…前半早大は15－11でリードして折り返したが、後半12分、6番小山の失格でリズムを崩し、11番、9番と連続退場となり一気に同点にされた。トヨタは速攻で得点を重ねるのに対して、早大は幅広い攻撃で一進一退となった。17分、早大再びGK、9番の二人が同時に退場となり、トヨタはチャンスをつかんだが、個人技に優る早大はよく頑張り、勝利を摑んだ。

埼玉教員 29（18－9、11－8）17 湯沢ク

○…埼玉教員は山田を中心に良くまとまったプレーで、前半早くも18－9と大差で終った。湯沢は菅野を中心に斉藤などが加わっているがディフェンスの甘さを前半から埼玉に読まれ、大量点を許し、一方攻撃になっては埼玉GK細井の好守にはばまれて、得点をあげることができなかった。

全宮崎 33（17－8、16－12）20 自衛隊勝田

○…自衛隊の単調な攻めでは宮崎の防御は崩れない。唯、速攻を招くのみであった。宮崎もセットプレーにスピードなく速攻だけの得点となった。後半戦宮崎の体力のなさが気になる。盛り上がりのないゲームであった。

▽2回戦

日新製鋼　33（15－12、18－12）24　筑波大学

○…スピードにのる筑波大のコンビネーションプレーを、更に上回るパワーのある日新製鋼は、前半なかばまで筑波大の食い下がりを許すものの、プレーの確実さで徐々に差をつけて前半を終了。

後半に入っても、筑波大は時折鋭どいプレーで得点するものの持続性に欠け、日新の城を崩すには至らなかった。

本田技研　25（15－8、10－7）15　中村荷役

○…出足両チームのディフェンスは良く、オフェンスのミスをさそい、コンビのない単独のシュートを打たせあっていたが、本田のサイドからのシュートが得点力となり前半リードで終る。

後半、本田のGKの好守による速攻で加点すれば、中村もカットインでチャンスをねらうが、追撃にもう一歩が足らず敗れた。

中　大　37（18－11、19－9）20　スワロー兵庫

○…中央大学は、よく走り、動きスワロー兵庫のディフェンスを乱すボール展開で、着々と得点し、ポストプレイあり、ダブルスカイプレーも決まった。一方スワロー兵庫は、単調な攻撃と、動きが悪く、特にディフェンスの甘さと、弱さが目立った。

三陽商会　30（17－14、13－11）25　日　体　大

○…前半三陽は、日体大の攻撃パターンをよく読み厚いディフェンスで守りを固め、そこから全員でよく攻めテクニックの差を感じさせた。しかし日体大も、アクロバチックなシュートをよく決め、じりじり追い上げる。

後半10分には、1点差までつめるが決定的なエースがいない為、善戦もそこまで、逆に関、山口と、二人のナショナルプレーヤーを持つ山陽が、ゲームの山場で威力の違いをみせつけた。

大崎電気　30（16－12、14－12）24　日　　大

○…前半立ち上がり、大崎電気が押しぎみでGKの好守にあい14－12で終るが、後半になると、開始2分14－14、それから日大のペースで終始リード。後半17分大崎電気が追いつき、一進一退の好ゲームであった。後半25分すぎから、大崎電気が主導権を握ぎり、結果は大崎電気が30－24で勝った。この試合退場者が多かった。日大の善戦。

栃の葉ク　31（15－13、16－13）26　早　　大

○…両チームスピードある攻撃で展開されるも、栃の葉の確実なプレーが早大を上回り、特に松井の活躍が光り前半3点リード。

後半、早大も粘るがペナルティ－3本はずしたのが響き、一方着実に得点を重ねた栃の葉が順当勝ち。

湧永薬品　38（16－9、22－8）17　埼玉教員

○…湧永薬品、攻撃、防御共、コンビネーションが良く、高い位置からのロングシュートあり、左右サイドからのシュート等々、自由自在に身をこなし、追加点をあげて行く。埼玉教員、最後まで力いっぱいのプレーで善戦したが敗退した。

大同特殊鋼　44（24－9、20－7）16　全　宮　崎

○…大同の高い厚いディフェンスの前に、全宮崎も善戦、左の船木のタイミングをはずしたシュートも良くブラインドをついていたが、走力と総合力に勝る大同の前には、時間経過と共に点差がついた。大同は中井、花輪が若手を上手に使い、コンビの良いポストプレーで華をそえた。

▽3回戦

日新製鋼　22（13－9、9－8）17　中　　大

○…日本リーグの日新とわたりあうだけのパワーとテクニックを持つ中大が、一歩もひけをとらず、立ち上がりから先手をとりつづけるが、中盤以降、日新がリードして前半終了。

後半に、中大の意気込みがどこまで持続するかに興味が持たれた

『ハンドボール』56年12月号（第203号）目次

【表紙写真】第6回日本リーグに優勝した湧永薬品・木野監督の胴上げ

提供・スポーツイベント

が、後半が開始されるや日新は3点差をつける。その後一進一退が続いたが、逃げ切った。日本リーグチームのゲーム運びのしたたかさを見せつけたゲーム内容であった。

本田技研 23（11−9、12−10）19 三陽商会

○…両チーム激しい闘志を燃やし、小きみ良い動きの中を1点差を争う好ゲームであった。GKの好守も両チームにみられ、再々のピンチをよく守りゲームを盛り上げた。

後半残り10分頃から三陽は、パスミスが本田の速攻につながり惜敗した。

大同特殊鋼 38（22−7、16−9）16 栃の葉ク

○…日本リーグ優勝の大同に対し、栃の葉中央から攻めようとするが、厚いディフェンスを破れず攻めきることができず、サイドからのシュートにたよりすぎた。大同は、経験豊富なゲーム運びで、終始リードを保ち、力、技量とも数段上であった。

湧永薬品 31（14−11、17−11）22 大崎電気

○…大崎のきびきびした動きで好ゲームとなった。特に前半10分あたりまでは、先行きを期待させたが、結局は、湧永のシュート力の前に大崎は屈した感がある。大崎の斉藤、湧永の池ノ上の左腕の対決も見物であったが、池ノ上の多様なシュートに軍配があがったというべきか。

▽準決勝

大同特殊鋼 19（9−10、10−5）15 本田技研

○…試合開始早々に、大同9番蒲生がフリースロー、ペナルティー等で3点ゲット、本田も喜井が1点ゲットするが、6−1と大同リード。本田は蒲生に9番高橋をマンツーマンとしたが、前半10−5と大同リードで終了。

後半立ち上がり、速攻ペナルティーと本田は3点差まで追うが、中盤よりコンビネーションの悪い攻撃で大同に速攻を許し、連続ゲットされ終始大同のペースでゲームが展開された感である。

湧永薬品 27（15−7、12−8）15 日新製鋼

○…開始早々、津川のポストからの飛び込みでPTを誘い、山本が決め湧永リード。それに対して、日新もすぐに高木のロングシュートを決め互角のスタートをした。日新は、得意の速攻で主導権をにぎったかに見えたが、湧永が、津川、山本、池ノ上、の個人技でたえず1点のリードを保った。21分日新吉見のPT失敗から湧永は、リズムを取り直し速攻、遅攻と得点を重ね、後半に入っても、危げなく点差を広げ勝利を得た。

▽決勝

湧永薬品 19（11−3、8−11）14 大同特殊鋼

○…双方共立ち上がりは、互いに早目早目にマークの相手をつぶす防ぎ方で始まったが、大同は、蒲生を軸に長短の各シュートを決め先行した。湧永は、穂積の健闘と池ノ上の長短シュートで食い下がったが、大同の組織攻撃が上回り11−8。

後半湧永は、前半とまるで違った攻撃をみせ、出場者が皆得点に関係する働らきをみせ、大同は逆に、フリースローライン前でのボール回しが多すぎてシュートに結びつかず、あわせてGK福井の好守もあり3点にとどまり、湧永の圧勝となった。

＜女子＞

▽1回戦

日立栃木 37（19−7、18−2）9 京都ク

○…実力差は如何ともしがたく、セットに速攻に多彩な攻めをみせて、日立が快勝した一戦であった。敗れた京都も、7番真部を中心に最後までよく健闘した。

ビクター 36（18−3、18−4）7 東京学芸大

○…全般にわたり一ランク上のビクターは、ゲーム開始から終止リードして試合を決した。学芸大は若さを発揮して、早い攻撃ができることを望みたい。

ブラザー 34（16−9、18−5）14 筑波大

○…経験豊富なブラザーに対して、筑波大は必死の攻防を試みたが、実力の差に開きがありすぎてどうにもならなかった。大学チームは、実業団チームに歯が立たず、ゲームに盛り上がりを欠く試合であった。

大崎電気 32（15−12、17−7）19 東女体大

○…大崎は、ゴール前のうまいパスワークでディフェンスをゆさぶり、確実に得点を重ね前半でワンサイドゲームにした。東女体も終止健闘したが、如何せん技術の差がありすぎるゲームであった。

武庫川女大 16（9−6、7−9）15 北国銀行

○…立ち上がり、リズムの出ない北国を武庫川リード。中盤、北国が追い上げて逆点し前半9−7で北国。

後半に入って5点差をつけて、ようやく北国のエンジン全開かと思われたが、決定力に欠け、武庫川の食い下がりを許し、28分ついに15−15の同点となる。最後、速攻のコンビネーションにまさる武庫川が、1点差で逃げ切った。終盤、緊張した好ゲームであった。

日体大 26（11−10、15−3）13 ムネカタ

○…体格スピードにまさる日体大は、いきなり6点を連取試合のペースを握った。その後もGKの堅い守りから速攻、セットでもポスト、サイド、ミドルと多彩な攻めで加点し、前半で15−3と一方的なゲームとなった。

後半、ムネカタも4番吉田のミドルなどで反撃したが、前半の差を広げないのが精一杯であった。両チームともディフェンスがやや荒っぽいのが気になった。

ジャスコ 29（16−5、13−6）11 大和銀行

○…前半なかばまでは、両キーパーの好守があり、緊迫した展開であったが、中盤に入ると、徐々に総合力の差が出はじめ差がついた。

後半に入っても、この差がひらくばかりとなり、ジャスコの快勝であった。

立石電気 29（13−9、16−9）18 東京重機

○…両チーム走力がよく、又、細かなパスワークから得点を加え盛り上がりをみせたが、立石の詰めの良いディフェンスの前に、重機の単発的なシュートを速攻に結びつけ、又、カットインが着実に得点になり差を広げた。重機の細かいプレーが立石の9メートルディフェンスラインに近すぎ、プレーを止めたのは惜しまれる。

▽2回戦

ブラザー 25（12−5、13−8）13 日立栃木

○…技術とスプードに一日の長のあるブラザーが、セット、速攻に多彩な攻めをみせて、粘る日立を一方的に降した。敗れた日立は、ブラザーの厚いディフェンスと、

GKの美技にシュートをはばまれ、単調な攻めに終始した一戦であった。

大崎電気　22（9－11、13－10）21　ビクター

○…立ち上がり大崎は、11、13番を中心に好スタートした。ビクターは、中盤から大崎の攻撃を見抜き、相手ミスの速攻で追いつき、25分に4番伊藤の速攻が決まり1点リード、しかし、大崎のPTで再び同点とし、パスカットからのチャンスを生かし、13－10の好ゲームのうちに前半終了。

後半大崎は、速攻でチャンスを生かしリードを保ったが、ビクターも良く粘り、28分志村の同点のPTが決まり、ゲームは振り出しとなり、29分20秒大崎2番のサイドシュートが決まり、決勝点となった。終始大崎GKの巧守が目立ち、影ながらの活躍が目立った。最後までわからない好ゲームであった。

立石電気　25（14－9、11－12）21　日体大

○…立石電気が立ち上がり、ミスを繰り返し苦しむ間に、日体大は得点に結びつけ、前半リードで折り返す。

後半開始早々、立石に退場者がでるが、その時逆に日体大が2点を失ったのが惜しまれる。立石はリードしてからは動きが良くなり、着実に加点してゲームが楽になり、立ち直ったかに見えたが、日体大は、最後まで全員が良く動き立石ペースにさせなかった。敗れはしたが日体大の今日の試合で、学生チームも自信をもって、今後の活躍を期待したい。

ジャスコ　19（15－5、14－2）7　武庫川女大

○…ジャスコは立ち上がり、10秒硬くなっている武庫川のディフェンスをつき、松下のロングシュートでリードし、1分にも松岡のサイドシュートを決めた。その後、武庫川は調子を取り戻しディフェンスで頑張り、約7分間ジャスコの攻撃をおさえたが、オフェンスがジャスコの厚い守り、ゴールキーパーの巧守にあい得点をあげられない。逆にジャスコ宮崎の得点から一方的な試合展開となった。

▽準決勝

大崎電気　21（11－9、10－11）20　立石電機

○…前半、大崎電機11番、13番の見事なステップとボールテクニックで優位に立ったが、立石は、日本リーグ優勝の風格に適した落着いたプレーで、徐々に追いつき1点リードで前半を終る。

後半開始後、立石スカイプレーを決めリードするが、大崎が逆点し、その後シーソーゲームの連続であり、最後まで、両チームともすべてのものを出しつくした、準優勝にふさわしい好ゲームであり、大崎電気が勝利を得た。

ジャスコ　19（11－7、8－8）15　ブラザー

○…両チームともに、きびきびした動きで準決勝戦にふさわしい熱戦となり、前半を8－8のタイで終えた。

後半も、1点を争う好ゲームとなったが、10－10の同点から杏原のロングシュートを防いだGKの好守からジャスコは一気に4点を連取、ゲームを決めた。ジャスコに一日の長があったと言うべきか。ジャスコGK矢部の好守が印象に残ったゲームであった。

▽決勝

ジャスコ　27（14－11、13－13）24　大崎電気

○…久しぶり決勝進出の大崎、日本リーグ2位のジャスコの対戦になり、飛竜の大崎がどこまでやるか大きな期待が持たれた。立ち上がりジャスコは、松下の活躍で2点連取し好スタートを切った。ジャスコは、持前の足を使いゲームを優位に展開したが、大崎も李京姫の鋭い攻撃で追いつき、一進一退のうちにゲームは進んだ。20分頃大崎は、ややミスが目立ち、ジャスコはそこをよくつき再びリードをしたが、前半終了1分前に、李京姫のミドルが決まり、続けて李京姫がボールをカット李相玉がよく走り、29分52秒同点に追いつき前半を終了した。

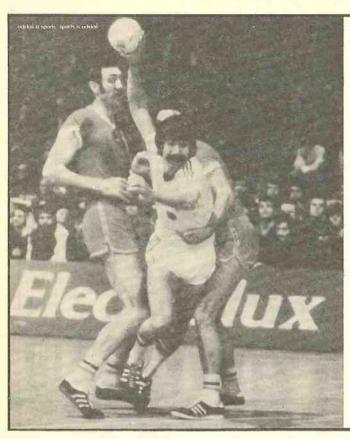
後半大崎は、李京姫の活躍で好スタートし、一気に走り出すかに見えたが、ジャスコも良く粘り、辻本を中心によく走りよく食い下がった。19分20－20の同点に追いつき、その後、両チーム互いにゆずらずレベルの高い好ゲームであった。26分、大崎・李相玉のポストからのノーマークシュートのミスからジャスコがチャンスを摑み、辻本の速攻で得点、若田、松岡の速攻を連続して決め勝利を決定的とした。

ジャスコ辻本、大崎・李京姫の10得点は、ゲームの中でひときわ光っていた。

●第6回日本リーグ〈後期〉

男子は大同特殊鋼 女子は立石電機が制す

全戦績

NIPPON LEAGUE

今年の＜リーグ・チャンピオン＞の栄光は男・大同特殊鋼（愛知）、女・立石電機（熊本）に輝やいた――第6回日本リーグは、前期の激闘を引きついで、11月14日から後期の熱戦を展開。男子は8勝1敗同士の大同と湧永薬品（広島）が、最終戦で対決。名古屋市体育館を埋めた二千余のファンの熱狂のうちに、大同が土たん場で同点に追いつき引き分け。前期の湧永戦を握った一勝が決め手となって、4年連続5度目の優勝を飾った。

大混戦の女子は、11月22日、準本拠地の京都でジャスコ（三重）を降した立石が、最終戦でもブラザー工業（愛知）を突き放し7戦全勝、2年連続3度目のタイトルを握った。

二人の元韓国代表選手を加えた大崎電気（埼玉）が3位に浮上、注目をあびたのは、大きな話題だった。

2部は、男子が大崎電気（埼玉）、女子が大和銀行（大阪）の優勝となった。

来年の第7回リーグは、6月12日に開幕の予定。

総評

本田技研の健闘で 波乱含みの展開

◆男子　今年も、結果的には、大同、湧永のタイトル争いになったが、最終戦での両者対決までの"道中"は、なかなかに波乱含み、今後に、大きな楽しみを残した。

なかでも、前期の本田技研×大同戦で、本田技研が一勝を握ったことは、大同、湧永の並走にあきかけていたファンの目を見開かせる効果があった。

本田技研が、波にのって湧永を食い、後期も突っ走れば、もっと、エキサイトしたペナントレースになったのだろうが、やはり、両者に締めてかかられると、一歩を譲り、最終順位は大同、湧永、本田技研に落ち着いてしまった。

次回での本田技研の奮起が期待される。

戦力アップを伝えられた日新は各試合とも、前評判どおりの力を示しながら2勝をあげただけの5位は悔いを残そうが、上位チーム

女子優勝の立石電機・薮田のシュート

に、日新戦を警戒させるだけの動きをみせたのは、注目してよい。イーグルスの相変らず老れんな試合ぶりも、目についたが、ひところほど「上位食い」に闘志を燃やさなくなったように思えるのだが、どんなものか。

三陽は、前期に本田技研と分け日新を破るなどしたが、後期第1戦でイーグルスに敗れたあとは、いささか戦意を失ない、テールエンドに甘んじた。

日本リーグの活況は、優勝候補に指を折られているチーム以外の一団が、どれほど働くかで、決まるだけに、本田技研以下各チームの、いっそうの闘志を待望したい。

さて、優勝の大同だが、〝勝因〟は、前期、本田技研に敗れたあと気落ちをせずに、湧永戦を勝ちとった試合ぶりが、最大のものであろう。

こころあたりの、チームのまとまりは流石（さすが）で、五連勝の偉業も、当然といえる。

湧永は、後期大同戦、残り9秒まで1点リード（20−19）していながら、追いつかれ、タイトルを握りそこねてしまった。

寝ざめの悪い結果ともいえるが前期大同戦を落しているだけにあきらめもつき、しこりは、大きくあるまい。

全日本総合（12月）での立ち直りは、充分望めよう。

李コンビ登場で活気

◆女子　男子に劣らぬ面白い展開だった。

特に、後期、大崎に加った李相玉、李京姫の両韓国選手が、前人気以上のプレーをみせ、「日本リーグ」にとっても、かつてない話題の提供者となったのは、混とんの首位争いに、花をそえた。

大崎の、対上位チーム戦が、前期に済んでしまっていたため、興奮度は、やや、おさえこまれたが両選手の加入が、これほど、リーグに活気を呼ぶとはリーグ、チーム関係者とも思わなかっただろう。

優勝戦線では、ブラザーが、伏兵視されながら、プレッシャーをはねのけられなかったのか、ビクターと引き分け、ジャスコ戦をとった立石が、第2週を終った時点で、勝利を確定づけた。

あっ気ない結果にも思えるが、第2週のこの角逐は、見応えがあり、国内女子界の上昇機運をうかがわせたのも収獲だった。

立石は、10月の滋賀国体(決勝)でジャスコに敗れ、今回も、前半リードを奪われる苦戦だったが、主力に並んだ全日本級選手が、ここぞという時に、気力を爆発させた。

敗れたジャスコも、まったくヒケをとらぬ戦力だけに、両者の対決は、今後、顔合わせのたびに好勝負となろう。

ビクター、日立は残念なことに〝二強〟に僅かだが水をあけられてしまった。

この4チームが、全国タイトルを一つづつ分けあったのは、つい1年前のことだ。

両チームとも、主力に故障がつづくなど不運はあるが、5、6位に甘んじる戦力ではないだけに、一気に坂を転げ落ちてしまうような試合ぶりは、感心できない。

北国、ムネカタは、ともに総得失点差がマイナス90点台を示すように、上位チームと差を拡げられすぎた。

いぜん2チームしかない二部リーグの救済手段として、一、二部合体説が、再燃しかかっているがBクラスの戦力が、あまり見劣りするようだと、その動きも止めてしまう。気分一新の再登場を望んでおこう。

なお、男女とも短期間集中開催の効果をのぞかせ、練習量充分の試合がつづいたのは、よかった。

後期全試合の跡

○第1週第1日

▽11月14日志木市民体育館(埼玉)

＜女子＞

大崎電気（3勝2敗）31（15−5、16−6）11 北国銀行（4敗）

○…大崎電気に新加入した注目の元韓国ナショナルの両エース、李相玉と李京姫がさっそうとデビュー。日本をアジアの女王の座から突き落とし、韓国球界を〝世界〟へ押し上げる原動力となった華麗なテクニックを随所に披露させ、つめかけたファンのタメ息を誘った。

対する北国銀行は、高校界のクイーン・小松市女高のOGで主力を構成しており、木戸、庄田、本田、の3人は、昭和50年の日韓高校交流で忠州女商高の李京姫と戦ったメンバー。

しかし李相玉をコントロールタワーに置き、シューターに左腕・李京姫、そして全日本のエースに成長した西という強力アタッカー陣を形成する大崎は、これまで大崎のロング二枚看板だった石井をポストに配するなど、豪華メンバーで試合に臨み、サイドシュートのスペシャリスト陽田のシャープな動きもからまって、どこからでも得点が狙える多彩な攻撃を次々と仕掛け、快調なペースで突っ走った。

北国のディフェンスが、自在にパスを操る李相玉にマークが集まるところを、西、陽田らで着実にポイントを加えた大崎は、守っても中央ラインに170センチクラス4人を並べる高い壁をフルに生かし八木を中心に攻める北国につけ入るスキを与えず、大量20点差をつけて快勝した。

＜男子＞

大阪イーグルス（3勝3敗）26（13−10、13−15）25 三陽商会（1勝1分4敗）

○…2年連続して入れ替え戦に出場している両者は、前期を終えたところでイーグルス2勝3敗で4位、三陽1勝1分3敗で5位という成績。この一戦の行方が〝入れ替え戦回避〟へ大きなポイントを握っており、さすがに気迫に満ちたプレーを応酬して1点を争うクロスゲームが展開された。

辻本、源野を軸に若手メンバーで臨んだイーグルスは、ベテランGK本田の闘志あふれるキーピングを速攻につなげ、後半10分過ぎに21−16と水をあけたが、三陽もテクニシャン山口の巧シュートなどで挽回を図り、残り3分に23−25と2点差、さらにイーグルス・源野の2分間退場のスキに石原がサイドから飛び込んで1点差とし、逆転に望みをつなげた。

しかし、イーグルスもよく踏ん張り、残り1分を切って新人・成

願がダメ押しとも思えるロングを中央から決めて26―24。すぐさま三陽は金子のサイドハンドからのジャンプで1点差、そして終了直前に関が起死回生のロングを放ったが、これをイーグルスGK本田が必死のキーピングでシャットアウト、辛うじて逃げ切りに成功した。

▽11月14日鈴鹿市体育館（三重）

＜女子＞

ジャスコ（4勝） 30（15―5／15―6）11 ムネカタ（4敗）

○…この試合に日本リーグ史上初（女子）の200得点達成をかけるジャスコ・松下は、開始早々、逆速攻からムネカタディフェンスをかわして巧みにゴールを成功、横山らのスピードあふれる多彩な攻撃でムネカタを圧倒、前半で10ゴールの点差を開き、ワンサイドゲームで全勝をキープした。

ムネカタは、ジャスコのシュートミスを逆速攻につなげて広田、岡部らで食い下がったものの、セットからのシュートに決め手を欠いて、ジャスコの攻勢に押しまくられた。ジャスコの新人・寺沢は、5本のPTを含む9ゴールと大暴れ、確実に成長の跡を示しジャスコの主軸にのし上がった感じだ。

＜男子＞

本田技研鈴鹿（4勝1分1敗） 23（11―8／12―9）17 日新製鋼（6敗）

○…佐々木のサイドシュートで先制した本田は、豊岡、喜井、坂本らでたたみかけ、動きの固い日新に前半15分6―1と差をつけたが、その後に足が止って吉見を中心に追い上げる日新の反撃を許し、後半10分過ぎまで2、3点差で日新が食いつき、なかなかセーフティリードが奪えなかった。

しかし、シュート力に一日の長を見せる本田は、日新に退場者が出たスキを巧みについて佐々木、粟屋らが確実にゴール、残り10分20―13として大勢を決めた。連敗脱出にかける日新は、終盤、泉、吉見らで必死に食い下がったものの、本田GK・大畑の好守に会って再三チャンスを逃し、そのまま6点差で押し切られた。

○第1週第2日

▽11月15日水海道二高体育館（茨城）

＜男子＞

湧永薬品（5勝1敗） 35（19―8／16―9）17 大阪イーグルス（3勝4敗）

○…前日、三陽商会に競り勝って後期幸先のよいスタートを切ったイーグルスだったが、さすがに今年度四冠達成を狙う湧永薬品の壁は厚く、辻本の強引なカットインなどで17ゴールを奪う健闘はあったものの、湧永を脅かすまでには至らなかった。

湧永は、キャプテン津川の好リードを軸に、山本の切れ味鋭いカットインや速攻、穂積のダイナミックなミドル、左腕シューター池ノ上の高打点からのジャンプシュート、さらには五年連続の日本リーグ最優秀シュート率の偉業に挑む松本の〝いぶし銀〟のようなポストやアシスタントプレーなどでイーグルスの守備網を次々と破り、前半で勝負を決めた。守ってもベテラン福井に代わって出場したGK井藤が無難にシュートをさばき、安定した試合運びで悠々と逃げ切った。

また終了直前には、津川がこの日9得点目のゴールを、30mもあろうという超ロングシュートを決め、コートサイドの度肚を抜かせた。

＜女子＞

日本ビクター（2勝3敗） 26（11―4／15―4）8 北国銀行（5敗）

○…後期で巻き返しを狙うビクターは、スタートでノーマークを再三はずしてペースに乗れなかったが、2年目の若手・中根が、速攻、サイドで柔軟な身のこなしから8ゴールを叩き出す大活躍、後半に入ってエース志村のシュートも決まり出し、一気に差を広げて圧勝した。

北国は、サウスポーヒッター八木が、足の負傷をおして大奮戦したものの、結局はこの八木ひとりに頼らざるをえない攻撃の決め手不足が響き、後半に入ってスタミナの衰えも手伝ってビクターの走りを止められずにズルズルと大敗を喫した。

▽11月15日栃木市総合体育館（栃木）

＜男子＞

大同特殊鋼（5勝1敗） 32（15―11／17―8）19 三陽商会（1勝1分5敗）

○…ライバル湧永薬品と、前期1敗同士で並ぶ大同の後期のスタートは、前半、三陽の粘りにあったものの後半に入って突き放し、横綱らしい勝ちっぷり。

大同は蒲生がフリースローからのジャンプシュートを一人時間差攻撃のような、タイミングをずらしたジャンプで決めると、大原や浦田の速攻が続いて先行した。これに対して三陽は5点目までをすべてサイドシュートで決めるという徹底したアウト攻撃で打開を図り、リードを広げられないよう、つかず離れずついていった。

大同がようやくリードを広げ始めたのは、15―11で迎えた後半から。5分間に3、4点づつ引き離していく形で、速攻、セットに波に乗った攻撃を見せた。後半なかばには24―16、その後もエース蒲生、大原らの活躍で、一気に28―17とするなど、三陽を力で押しつぶした。

三陽も関のカットインや、金子のブラインドをついたミドルシュートなどで抵抗したが、前半ほどはセットでの得点を奪えず、逆に速攻を食ってしまう結果となった。

なお、この試合の前半5分、大同のエース蒲生は日本リーグ通算得点を400得点とし、栃木県協会より花束を贈呈された。通算400得点は男女を通じて初。全日本のエースでもある剛腕・蒲生ならではの記録達成ともいえそう。蒲生は77年入社後、4年半という急ピッチで400ゴールをたたきこんだもの。

＜女子＞

大崎電気（4勝2敗） 22（8―7／14―7）14 日立栃木（1勝3敗）

○…前日、埼玉でデビューした韓国からの助っ人・李コンビが、大崎電気の一員として、どれだけの力を示すのか、真価を問われる一戦だったが、後半に入って肩の力の抜けた大崎セブンが走り勝って、李コンビの力を引き出し、好プレーを披露させた。

地元の日立栃木は、李コンビ加入の大崎に対して、やすやすとは勝ち星をあげられまいと旺盛な闘志を見せた。とくにディフェンスで早目のチェックを執ように繰り返して大崎のコンビを分断した。李相玉が多彩なパスワークからポストへ入れてくるパスもその受け手のポストマンを徹底して抑えこ

んで通させず、そのボールを拾っては速攻につなげて一進一退の攻防に持ちこんだ。
日立のディフェンスが下がりぎみなのを攻めにくいとみた大崎ベンチは、李京姫をフローターにあげて上を三人が攻めるパターンに変化させ、日立ディフェンスを前へ引っぱり出す作戦に変更。
8—7で迎えた後半、この大崎の作戦が功を奏して、日立のディフェンスコンビが乱れ始めた。
大崎は、陽田が左サイドで着々と点を取る一方、李京姫がパッサーに回って、李相玉、西、石井らがディフェンスを横に振っては飛びこんで、リードを広げた。終始、李相玉のリードぶりが光った試合だった。日立では新人の山本のシャープなロングが、ゴールを切りさき、非凡な素質をのぞかせた。

○第2週第1日

▽11月21日大阪市中央体育館（大阪）

＜女子＞

日立栃木 12（5—7 7—4）11 北国銀行
（2勝3敗） （6敗）

○…試合前は、日立の圧勝を予想する声が強かったが北国が旺盛な闘志を見せてチャレンジ、日立を土俵ぎわまで追いつめて、館内を沸かせた。
日立は開始直後から地に足がつかない状態で、とくにディフェンスのコンビネーションが悪く、北国のカットインで、やすやすとゴールを割られ、全くいいところないスタート。
押しぎみの北国は、木内のスピードに乗った動きでキッカケを作っては本田、竹らが飛びこみ、前半を7—5のリードで、終った。
後半に入った日立は、ディフェンスのフォローを早目にすることで守り固めて反撃体勢を作り、後半なかばに水上、山本らで追いついて、ようやく逆転、北国の終盤の猛攻をおさえて、なんとか逃げ切り、冷や汗の勝利。北国は左腕エース八木が足の故障で戦列を離れていたのがなんとも痛かった。

女子・ビクター対北国戦

＜男子＞

大同特殊鋼 31（17—12 14—8）20 大阪イーグルス
（5勝1敗） （3勝5敗）

○…前半は両チームとも足をよく動かし、互角の戦いだった。イーグルスは、左腕エース・辻本がロングを決めて、試合の口火を切った。直後、大同は、蒲生のロングが爆発。高い打点から、元全日本GKイーグルスの本田のタイミングをはずして打ちこんで1—1。
その後は、大同が蒲生、小野、イーグルスが辻本を中心に展開、一進一退の攻防で互いに譲らず、前半は大同14—12で折り返した。
後半に入ると、大同はイーグルスディフェンスの横の動きがにぶったのを見逃さず、パスの展開を速くして、イーグルス守備陣をふりまわしにかかり、徐々にリードを奪い、加速度的に得点ペースを上昇させ、善戦のイーグルスをねじふせた。

▽11月21日福井県営体育館(福井)

＜女子＞

立石電機 27（12—3 15—4）7 ムネカタ
（5勝） （5敗）

○…立石の完勝だった。立石はムネカタの帰陣の遅さをつき、シュートミスのリバウンドを確実にモノにして羽立、桑原が走りこむ一方、思い切った攻めでムネカタの反則を誘って紀野、薮田らがPTを確実に決め、10分すぎには10—1と大きくリード。
これに対し、ムネカタは身長差のハンデもあって立石ディフェンスの壁を崩せず、苦しまぎれに打つシュートを立石GKの井村にストップされ、2点目を決めたのは前半残り5分。岡部らが必死に攻めたが得点ペースは伸びず前半を15—4と立石が大差をつけた。
後半に入っても立石の猛攻はおとろえず、ムネカタの帰りの遅いのをついて木下、紀野が矢つぎばやに速攻を決め、ムネカタは後半に広田、石田のロングなど3得点にとどまり、立石は二線級をくり出す余裕を見せてムネカタに楽勝した。

＜男子＞

湧永薬品 29（14—7 15—8）15 本田技研鈴鹿
（6勝1敗） （4勝1分2敗）

○…湧永、大同を連破して初優勝を狙う本田だったが北陸シリーズ初戦の湧永に力負けして初栄冠の夢はあえなく消えた。
本田は坂本のミドルで先行したが湧永ディフェンスを思うように攻められず7分間で3得点。これに対し、大砲を持つ湧永は津川、池ノ上が切れのよいロングを叩きこみ、本田も8分から豊岡、喜井、髙橋が強引に決めるものの苦しい攻めで散発的。前半を15—8と湧永が優位に立った。
後半に入っても湧永のディフェンスが上回り、本田はポストに豊岡、喜井を立ててきっかけをつかもうとするものの散発的に決まるだけ。これに対し、湧永は津川、生駒、池の上の大ワザが威力を見

テーマは「人間と機械」
OMRON
残高照会
ご送金
いらっしゃいませ
ご用件のキーを1つ
お押しください
※押さずにカードを
お入れになりますと
お引出になります
お引出
ご預金
通帳記入
人間と機械との対話。
機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。
すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。
このように、オムロンは"人間と機械との対話"を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。
OMRON小形現金自動預金支払機
預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、
目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。
だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。
OMRON
800
OMRON電子レジスタ591-IRC
価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、
さらにレシートにも同じカナ文字で印字。
明瞭で気もちよい会計が行なえます。
OMRON
立石電機
立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

せ、山本、藤本らも切れのよい小ワザを見せて順調に加点。本田は残り10分に22−15としたのが精いっぱいで湧永に力負けした。

▽11月21日横浜文化体育館（神奈川）

＜男子＞

日新製鋼（1勝6敗）36（17−10、19−10）20 三陽商会（1勝1分6敗）

○…連敗脱出に気迫を燃やす日新は、これまでの低迷が全くウソのようにスタートから好調に飛ばし、大量16点差をうけて三陽に圧勝した。

前期は、持ち味である〝走り〟を忘れた感じで苦戦を続けていた日新だが、この日はゲームメーカー脇若のパス回しを軸に、徳田、泉、大場らが果敢に走って三陽ゴールに襲いかかり、守ってもGK西川が、三陽の山口、金子らのシュートを次々と阻んで前半で大勢を決めた。後半に入っても勢いに乗る日新は、アシスト、シュートに意欲を見せる脇若が、若い日新セブンをよくリードして三陽の反撃を寄せつけず、そのまま押し切って会心の勝利を収めた。

男子・イーグルス対三陽商会戦

＜女子＞

ブラザー工業（3勝1分1敗）20（9−11、11−9）20 日本ビクター（2勝1分3敗）

○…開始早々、木下のポストシュートで先制したブラザーが、前半15分までに4−1とリードして波に乗るかと思われたが、池田、小島のベテラン勢を投入して建て直しを図ったビクターのポスト、速攻に苦戦を強いられ、逆に9−11とアヘッドを背負って前半を折り返した。

後半もビクターの攻勢が続き、高水の鋭いカットイン、村上、池田のロングなどで11分に17−11と大きく水をあけ、杏原のフリースローが決まらないブラザーを押しまくった。

しかしブラザーもようやく中盤を過ぎて速攻の歯車がかみ合い出し、杏原、竹内のロング砲も火を吹き出して猛反撃を開始、残り3分に山村PTで19−19の同点、さらに残り2分には竹内のカットインで逆転に成功した。その直後のビクターのPTをGK中村が好キープしただけに、ブラザーがそのまま逃げ切るかに見えたが、ビクターは残り20秒に志村が同点のロング。すぐさまブラザーは反撃に転じ、植田が速攻からループシュートを見せたが、ゴールイン寸前にタイムアップとなり、観衆を沸かせに沸かせた大接戦は、結局両チーム相ゆずらず、引き分けに終った。

ブラザーはこの引き分けで、優勝戦線から大きく後退を余儀なくされ、優勝の行方は、翌22日に京都で対戦する立石、ジャスコの2チームに絞られることになった。

○第2週第2日

▽11月22日京都府立体育館（京都）

立石電機（6勝）22（8−10、14−9）19 ジャスコ（4勝1敗）

○…全勝同士の対決で、この一戦で立石がジャスコを破れば、最終日のブラザー戦を待たずして2年連続3回目の優勝を達成、ジャスコもこの立石戦をものにすれば、翌23日のブラザー戦で優勝が決まるという、ともに一歩もあとに引けない大一番。全日本実業団では立石が、先きの滋賀国体ではジャスコが、それぞれ1点差で下して優勝を遂げたライバル同士だけに、この試合も激しい競り合いが予想されたが、やはり、開始早々から1点を争う白熱したクロスゲームが展開され、スリリングな攻防を繰り返してコートサイドを沸かせた。

薮田の鮮やかなカットインで先行した立石に対しジャスコは横山の速攻で反撃。その後、両チームともPTで得点をあげて一進一退となったが、ディフェンスの早いピストンの働きで立石の巧みなボール回しを寸断して横山の速攻につなげたジャスコの勢いがややまさり、前半終了まぎわにエース松下のスタンディング、ロングなどで3連続ゴール、10−8と2点差のリードで前半を折り返した。

遅攻で姫野のポストプレーを中心に攻めていた立石は、全員の走りがいまひとつかみ合わず、守っても辻本の強引なカットインに間を割られる場面が多く見られて苦戦を続けていたが、GK井村の再三にわたる好守で失点を最少限に食い止め、後半に望みをつないだ。

ジャスコの攻勢を井村の踏ん張りでしのいでいた立石は、後半に入ってジャスコの守りがやや甘くなったところをつき、木下の速攻、薮田のPTで同点、さらに桑原のサイドで一気に逆転に成功した。

この逆転で目がさめたのか、ジャスコも若田の速攻などで再逆転、両チームとも本来の動きを取り戻して激しい攻防を展開、勝負は終盤にもつれ込んだ。

しかし、国体の雪辱に燃える立石は、攻守に気迫のこもるプレーで再スパート、木下の巧みなカットインなどを織りまぜて後半10−20分までの中盤に5点をもぎとり、守っても2−4ディフェンスから1−5ディフェンスに変え、ジャスコのエース松下を徹底的にマークしてジャスコの攻撃のリズムを崩すことに成功、この間2失点に抑えてゲームの流れをつかんだ。

ジャスコも終盤、横山、若田の速攻、サイドで反撃したが、辻本、松下の動きを止められて得点ペースが伸びず、立石の逃げ切りを許す結果となった。この瞬間、立石は最終戦のブラザーに敗れても、規定でジャスコを上回り、2年連続の優勝が決まった。

＜男子＞

湧永薬品（7勝1敗）26（11−8、15−7）15 日新製鋼（1勝7敗）

○…前日、今シーズン初白星をあげ、ムードの盛りあがる日新は、吉見のサイドとロングで2点連取し、先行した。対する湧永も、国体優勝の自信を見せ、穂積のサイド、速攻で追いつき、山本のサイドで逆転、一気に引き離すかに見えた。

しかし、この日の日新は見違えたようによく動き、早いチェックで湧永の攻撃をおさえた。湧永も大事な場面の甘いミスが目立ち、意外なロースコアの展開となったが、地力に勝る湧永が3点差をつけて前半を折り返した。

女子・ジャスコ対ブラザー戦

後半に入ると、徐々に日新のディフェンスに疲れが見え始め、ラフプレーが目立つようになり、湧永に押しこまれて、PTを誘われる場面が多くなった。

このスキをついた湧永は、穂積のミドル、志賀、生駒のロングなどでたたみかけて、力を爆発させ、必死の抵抗を続ける日新を力で押しつぶした。

▽11月22日石川県体育館（石川）

＜男子＞

大同特殊鋼（7勝1敗） 21（13－7／8－8）15 本田技研鈴鹿（4勝1分3敗）

○…本田は予想通り大同の蒲生に高橋が密着マンツーマン。攻めても、速いペースで警戒して、じっくり攻め、坂本、喜井がポストとロングを決めて16分すぎで5－4と先行した。

しかし、このあたりから大同は本田のスローペースを崩し出し、気迫を見せて激しいオフェンスを展開したのがよく、本田のディフェンスも粘りを欠いたため中本、中井、蒲生らが豪快に決めて残り3分には13－7と大同ペース。本田は佐々木が強引につっこみ、大同のシュートミスを拾って坂本、粟屋が走りこみ10分すぎに16－10とつめよった。大同は残り7分に蒲生が脚を痛めて4分間ベンチに退いたが本田はこのチャンスをつけず、逆に大同は花輪のアクロバチックなシュートを織りまぜて本田をつきはなした。

＜女子＞

北国銀行（1勝6敗） 17（10－3／7－9）12 ムネカタ（6敗）

○…全敗同士の両チームは必勝を期して激突、ムネカタはローリングからチャンスを狙ったがシュートが単調となって北国の酒谷が難なく防ぎ、10分までは食いついたものの、そのあとは北国ペース。八木を軸に、木内、竹らも続き、場内の声援にのって前半を10－3と7点差をつけた。この間、ムネカタは石田がPTのチャンスに再三カットされて決められず苦しい展開。

後半に入り、ムネカタは相変らずオフェンスの決め手を欠いて苦しく、勢いにのる北国は木戸がロングを決めたのを皮切りに、八木、竹らが果敢に攻め、10分には13－5と差を広げた。

このあとムネカタは終盤にかけて、ようやく石田がPTを決め、大河原、佐藤らで必死に追い上げたが及ばなかった。点差はつまったが、終盤を除いて北国が終始主導権を奪った一戦だった。

○第2週第3日

▽11月23日神戸王子スポーツセンター（兵庫）

＜女子＞

ジャスコ（5勝1敗） 21（10－11／11－9）20 ブラザー工業（3勝1分2敗）

○…前日、京都で立石電機に敗れて優勝の目がなくなったジャスコは、さすがに気落ちしたのかブラザーに終始先手を打たれて苦戦を強いられたが、終了3分前に新人・寺沢のシュートで20－20の同点に追いついて勢いを取り戻し、残り2分を切ってブラザー・竹内のシュートミスを逆速攻につなげ、またもや寺沢が鮮やかな逆転ゴール、21－20とブラザーをかわし、2位の座を辛じて確保した。

＜男子＞

大同特殊鋼（8勝1敗） 27（12－10／15－9）19 日新製鋼（1勝8敗）

○…吉見の健闘で前半10－12と日新だったが、後半に入ってディフェンスを固めた大同の気迫あふれる守りに、次第に受け身に回る格好となってシュートが散発になり、PT5本を含んで12得点を記録したエース蒲生を中心とする大同の攻勢を許す結果となった。

後半、日新はフリースローからのフォーメーションで、鮮やかにゴールを決めて勢いつくかに思えたが、前日の湧永戦同様、足をフルに使った攻撃で前半はピタリと食いついたものの、後半に入ってディフェンスのスタミナ切れが目立ち、快調だった攻撃のリズムも息切れ気味となって、結局は善戦するにとどまった。

▽11月23日富山市体育館（富山）

＜女子＞

日立栃木（3勝3敗） 21（12－6／9－5）11 ムネカタ（7敗）

○…21日の北国戦で12－11と思わぬ苦戦をした日立は、この日も攻守にチグハグなプレーが目立ってムネカタの追撃を許し、10点差をつけて勝ったとはいえ本来の日立らしい迫力のある攻撃が影をひそめていた。これに対しムネカタは、GK清水のファイトあふれるキーピングを軸に、得意の速攻を武器としてグイグイ日立陣内に攻め込んで日立ゴールを脅かした。やや突っ込みすぎのきらいがあって、日立の高いディフェンスの壁に止められるケースが見受けられたが、これはロング砲を持たない

弱味か。

　結局は、地元・富山出身の全日本プレーヤー水上を擁す日立が、前田の活躍もあって終始ムネカタをリードして順当勝ち、ムネカタの健闘も及ばなかった。

＜男子＞

本田技研鈴鹿（5勝1分3敗） 22（14－11、8－7）18 大阪イーグルス（3勝6敗）

○…湧永、大同〝二強〟に挑戦状を叩きつけた北陸シリーズ2連戦に連敗した本田技研に対し、イーグルスは執ような粘りでピタリと終盤まで食いついていったが、キャプテン佐々木のシャープな動きで要所をしめた本田技研が、坂本らの活躍で速攻を繰り出し、イーグルス懸命の反撃をGK大畑が冷静にさばいて5勝目を記録、3位の座を確保した。辻本、源野らで奮戦したイーグルスだったが、後半に力尽きた格好で3勝6敗に終り、自動的に4位が決定した。

▽11月23日広島県立体育館（広島）

＜男子＞

湧永薬品（8勝1敗） 32（13－11、19－8）19 三陽商会（1勝1分7敗）

○…三陽商会は、攻撃につなぎを欠き、短発シュートが多く、加点に苦しんだ。

　一方の湧永薬品は、池ノ上、津川、生駒と並ぶ中央の高く力強いディフェンスで三陽の切り込みを容易に許さず、セットあるいはシュートミスからの速攻で、松本が12本のシュート機会を全て成功するという大車輪の活躍を含め、津川の好リードを軸に池ノ上、山本らが次々と三陽ゴールを割り、前半で勝負を決めた。後半に入って三陽は、関、山口の反撃に転じるものの、前半の失点はあまりに大きく、若手を繰り出して余裕を見せる湧永を脅かすまでには至らなかった。

女子・大崎電気対日立栃木戦

○後期最終週第1日

▽11月28日温泉津町民体育館（島根）

＜女子＞

大崎電気（5勝2敗） 33（17－5、16－11）16 日本ビクター（2勝1分4敗）

○…先取点をあげた大崎がリード、8分過ぎからビクターが逆襲して興味を持たせたが、パス展開では大崎が上回り、とくに韓国からの助っ人・李相玉、李京姫のラテラルパス、バックパスにビクターが振り回された格好で、大崎の5点差で前半を終えた。後半に入っても10分過ぎまでは、ビクターもよく点を返して踏んばったが、大崎は、ビクターが李相玉をマークにきたのを契機に、左腕・李京姫、右からはエース西が打ちまくって連続12得点をあげ、一気に試合を自分のものにした。

　李相玉の大崎チームを盛りあげるリードぶりは素晴しいものがあったが、その相玉をマークされた時の周囲の活躍も目をみはるものがあったこのところの大崎の攻撃力のアップは、試合をこなすたびに伸びていく、といえるほど急上昇。李相玉と李京姫で15得点をマークしたが、これにからむ西が5得点、そして石井もロングをビシビシと決めて7得点を叩き出すなど、破壊力を増した攻撃の威力は、このあとの全日本総合では各チームの驚異のマトになりそうだ。

＜男子＞

日新製鋼（2勝8敗） 29（14－8、15－13）21 大阪イーグルス（3勝7敗）

○…ゆっくりとした試合展開で始まり、互角の攻防をくり返すが、前半20分に徳田の得点からやや日新ペースとなり、吉見、脇若、高木らでたたみかけた日新が2点のリードで前半を終了。

　若手メンバーで臨んだイーグルスだけに、好不調の波が大きく、後半すべり出しに日新の攻勢にあって試合テンポが狂い出し、10分間で辻本、大西の2ゴールにとどまった。これに対し日新は、イーグルスの帰陣の遅れをついて得意の速攻を仕掛け、吉見、徳田が次々とゴールを成功、課題のPTも洞ケ瀬が確実に決めて21－15と水をあけた。

　イーグルスは終盤、左腕・大西が切れのいいプレーで得点を返すが、後期に入って調子を上げている日新のリズムを崩すまでは至らず、日新は森、日野、一瀬ら、若手をくり出す余裕を見せ、楽々と逃げ切った。

○後期最終週第2日

▽11月30日境港市民体育館（鳥取）

＜女子＞

ジャスコ（6勝1敗） 27（13－8、14－8）16 日立栃木（3勝4敗）

○…開始より10分間、固さで動きの悪い日立に対し、ジャスコは速い動きから横山のポストで先制、寺沢のノーマークと続き、さらにはスカイプレーをおりまぜて着々と加点。12分、水上のカットインでやっと初得点という日立との動きの差が、最後まで大きくものをいった。

　ジャスコは、ベテラン松下の好リードと横山のシャープなプレーを軸にのびのびと攻撃を展開、守っても早い帰陣で日立の速攻を抑え、大差をつけて完勝。新人・寺沢の8得点と、相変らずの巧技で5得点を奪った松下のプレーが光った。

＜男子＞

本田技研鈴鹿（6勝1分3負） 24（13－11、11－9）20 三陽商会（1勝1分8敗）

○…本田GK・大畑の好守により、再三の得点チャンスをものにできなかった三陽は、その後も大畑を意識しすぎてシュートが固くなり、得点ペースが伸びなかった。

　一方の本田技研もイージーミスが続いて11－9と前半を折り返したものの内容的にはピリッとしたも

給与の
お引き出しに…

出張に…

ショッピングに…

銀行が
閉まった後で…
(ダイワの外壁や☑コーナー)

旅行に…

ふいの出費に…

日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、また☑マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや☑マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

預金も
信託も…

あなたと明日を
大和銀行

☑マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

のがなく凡戦模様。
　後半に入って、本田・佐々木のタイミングをはずしたシュートがよく決まり、三陽は関、山口、石原の活躍で得点して追いすがるが、関中心のロングに対して小ワザをうまく使った本田技研の確実性がまさり、4点差をつけて本田が逃げ切った。得点差は小さかったが、盛り上がりに欠けた一戦だった。

▽11月29日名古屋市体育館（愛知）

＜女子＞

立石電機（7勝）17（6−10 11−4）14 ブラザー工業（3勝1分3敗）

〇…すでに前週で優勝を決めている立石電機だが、なんとしてもこの最終戦も勝って全勝で有終の美を飾りたいところ。一方、ツメの甘さがたたって大事な日本ビクター戦（引き分け）とジャスコ戦で目前の勝利をフイにして優勝戦線から脱落したブラザーも、この地元での立石戦でなんとか上昇ムードの足がかりをつかみたいと必勝の構え。
　スタートは、ブラザーの意欲がまさった感じで、ラインクロス、オーバーステップなどで得点が止まった立石に対し、積極的に打って出て立石ディフェンスを突破、前半15分に7−1、25分にも杏原のロングが決まって10−3と大きくリードを奪い、快調なテンポで試合を運んだ。
　しかし、さすがに地力のある立石は、前半終了間ぎわに姫野、薮田、木下で3ゴールを返して反撃ののろしをあげ、後半開始早々にも紀野から羽立に渡る、それも間に桑原のトリックジャンプをはさむという鮮やかなスカイプレーを成功、がぜんペースは立石側に傾いた。
　得点差はみるみるうちに縮まり、立石は後半2分にブラザー植田にPTを決められたものの、5分過ぎから薮田のロング、速攻、木下の鋭い突進で4連続ゴールをもぎ取って10分には11−11の同点に追いついた。
　ブラザーは、ほぼ戦利を手中にしながら白星をあげられなかったビクター、ジャスコ戦の後遺症がありありとうかがわれ、好調に攻めたてていたそれまでの展開が全く影をひそめ、シュートに積極性を欠いてボール保持時間が極端に長くなった。
　竹内、尾崎で15分13−11と再びリードしたブラザーだが、ディフェンスを固めて速攻に勝負をかけた立石は、GK井村からの好パスが木下、桑原、羽立らにつながってまたたく間に逆転、ブラザーは残り5分に植田の速攻で14−14と同点に追いついたのが精いっぱいだった。立石とすれば、後半のブラザーのストーリング気味の攻撃に焦ることなく、じっくり守って速攻につなげたの勝因。せっかくいい形に持ち込みながら、またもやブラザーは悔しい逆転負けを喫した。波に乗れそうで乗れなかった今リーグのブラザーを象徴するような一戦だった。

＜男子＞

大同特殊鋼（8勝1分1敗）20（11−8 9−12）20 湧永薬品（8勝1分1敗）

〇…優勝をかけた天王山。やはり日本の最高峰をいく両チームの激突は、一点を争うスリリングな幕切れとなった。
　残り5分17−17の同点。もし引き分けならば、前期で湧永に勝っている大同の優勝となるわけで、湧永が優勝するためには〝勝利〟が絶対条件、すでにこの場面で湧永は大同に「1点のリード」を奪われている勘定だった。
　これからの両チームの攻防はすさまじかった。大同・柳川が湧永GK・福井のキーピングをかわすように空中で粘りに粘って執念のポストシュートを決めれば、湧永も山本のPTで残り3分19−19。さらに湧永は、この試合大活躍の志賀が、ポストから倒れ込んで待望の勝ち越しゴールを記録した。両チームの一挙手一投足に館内は割れんばかりの大歓声、選手たちもゴールを決めるごとに、コブシを高くかかげ、ジャンプしながらのガッツポーズを交互るに連続させ、大興奮のうちに劇的なフィナーレが近づいていった。
　残り2分、大同は大原のカットインで誘ったPTをエース蒲生がこん身の力をふりしぼって湧永ゴールに突き刺して19−19とまた一歩〝リード〟。が、それもつかの間、1分を切って湧永は、後半に入ってエンジンを全開させたロング砲・池ノ上が、矢のようなステ

優勝かけた大同—湧永戦

ップシュートを放って、またもや20—19とリードを奪った。この池ノ上のゴールが勝負を決めたと誰れもが思った。
しかし、大同は死んでいなかった。池ノ上にゴールを決められてハーフラインまでボールを運び、スローオフとなったのが残り30秒近く。「こうなったら蒲生のフリースローしかない」—大同セブンが鋭い突進で湧永の反則を誘って中央付近でフリースローを得たのが残り15秒あるかないか…。
大同とすれば、このチャンスに全てを賭けるしかなかった。蒲生のシュートが入らなければ、もうそれで終りだ。
フリースローラインの外側に3人のブロッカーを立てて蒲生がジャンプ。必死にこれを阻もうと跳ぶ湧永ディフェンス陣とGK福井。

男子・湧永と大同の熱戦

蒲生の手から離れたボールは、福井の左手上をかすめるようにして見事ゴールイン。この日、14点目の蒲生の一投だった。湧永が急いでボールをハーフラインまで運んだところでタイムアップ。コート上は、ピョンピョンと跳びはねる大同セブンと、ガックリ肩を落とした湧永セブンの明暗がクッキリとうき出された。
昨年の全日本総合、そして今年の全日本実業団、国体と、タイトルを次々とライバルに明け渡し、湧永以外にも本田技研に2度にわたって足元をすくわれるなど、これまでにないピンチを迎えてこの日本リーグ後期を迎えた大同だったが、素晴らしい執念を見せて前半から飛ばしに飛ばし、後半なかば過ぎてベテラン陣のスタミナ切れから湧永の反撃を許したものの、土壇場で驚異の粘り腰を発揮、シンボルマーク〝フェニックス〟と同じく、鮮やかによみがえった。
一度は5点差まで広げられたリードを、池ノ上らではね返して優勝に王手をかけた湧永だったが、大同の執念の前に屈した格好。これで今年の2強対決は、1勝1分1敗の五分で、近づく12月の全日本総合が、56年度シーズンの結着をつける正念場となった。

〔ベストセブン〕
＜男子＞
GK 大畑孝広（本田技研鈴鹿）
FP 蒲生晴明（大同特殊鋼）
大原真造（大同特殊鋼）
津川　昭（湧永薬品）
池ノ上孝司（湧永薬品）
佐々木信男（本田技研鈴鹿）
辻本孝仁（大阪イーグルス）
＜女子＞
GK 井村文光子（立石電機）
FP 木下智子（ジャスコ）
松下仁美（ジャスコ）
西　典子（大崎電気）
杏原礼子（ブラザー工業）
志村和子（日本ビクター）
八木千津子（日立栃木）

〔最多得点賞〕
＜男子＞
辻本孝仁（大阪イーグルス）63点
＜女子＞
西　典子（大崎電気）32点

〔最高得点率賞〕
＜男子＞
松本義樹（湧永薬品）0、867
〜5年連続の受賞〜
＜女子＞
横山澄江（ジャスコ）0、828

〔最優秀監督賞〕
＜男子＞
野田　清（大同特殊鋼）
＜女子＞
井　薫（立石電機）

〔ペナルティー得点賞〕
＜男子＞
蒲生晴明（大同特殊鋼）
佐々木信男（本田技研鈴鹿）｝30点
＜女子＞
志村和子（日本ビクター）34点

〔最多得点ベスト10〕
（最多フィールドゴール）
＜男子＞
①辻本孝仁（大阪イーグルス）63点
②蒲生晴明（大同特殊鋼）62点
③関　健三（三陽商会）53点
④池ノ上孝司（湧永薬品）52点
⑤吉見昌憲（日新製鋼）45点
⑥松本義樹（湧永薬品）39点
⑦津川　昭（湧永薬品）38点
⑧坂本逸雄（本田技研鈴鹿）37点
⑨大原真造（大同特殊鋼）36点
⑩穂積豊彦（湧永薬品）33点
＜女子＞
①西　典子（大崎電気）32点
②木下智子（立石電機）31点
③松下仁美（ジャスコ）30点
④八木千津子（北国銀行）30点
⑤石井美沙子（大崎電気）27点
⑥陽田伊都子（大崎電気）25点
⑦横山澄江（ジャスコ）24点
⑧桑原広子（立石電機）23点
⑨増永真奈美（ブラザー）22点
⑨寺沢路子（ジャスコ）22点
⑨水上清美（日立栃木）22点

第2回世界女子選手権Bグループは、11月27日から12月6日までデンマークのランダース、ビボリーなどでヨーロッパ地域の12カ国が参加、来年12月ハンガリーで行われる第8回世界女子選手権への五つの出場権を争った。

大会は、6カ国づつ2組の予選リーグに分かれ、各組2位までがまずAグループ行きを決め、残る一つは両組3位同士が対戦して決められた。

その結果、A組ではチェコ、ノルウェー、B組ではルーマニア、ブルガリアが勝ちあがり、西ドイツ×ポーランドの決定戦は、西ドイツが快勝、5カ国が出揃った。

また、Bグループとしての順位争いは、チェコ×ルーマニアの決勝戦となり、大乱戦からチェコが逆転勝ち、初優勝を決めた。

個人得点は48ゴールをあげたガツシチェ（オーストリア）が1位以下、カールソン(スウェーデン)44、デュリシノーバ(チェコ)41、デイミトローワ(ブルガリア)38、ワテワ（ブルガリア）29の順だった。

これで、Aグループ出場12カ国のうち10カ国が決まり、残るアジア大陸代表、アメリカ大陸代表各1カ国は、来年6月ごろまでに決められる予定。アジア大陸予選の詳細は、決まっていない。

▽予選リーグA組

チェコ 20―15 フランス
西ドイツ 18―14 オーストリア
ノルウェー 10―9 デンマーク
チェコ 21―20 ノルウェー
西ドイツ 18―13 フランス
デンマーク 11―9 オーストリア
チェコ 21―17 オーストリア
西ドイツ 16―12 デンマーク
ノルウェー 18―10 フランス
デンマーク 16―14 チェコ
ノルウェー 17―15 西ドイツ
フランス 25―23 オーストリア
チェコ 20―18 西ドイツ
デンマーク 26―13 フランス
ノルウェー 17―13 オーストリア

【順位】①チェコ4勝1敗②ノルウェー4勝1敗③西ドイツ3勝2敗④デンマーク3勝2敗⑤フランス1勝4敗⑥オーストリア5敗。

▽同B組

ポーランド 15―15 スウェーデン
ルーマニア 28―10 スペイン
ブルガリア 24―17 オランダ
ブルガリア 23―21 ポーランド
ルーマニア 18―15 スウェーデン
オランダ 17―16 スペイン
ポーランド 34―12 スペイン
ルーマニア 30―13 オランダ
ブルガリア 17（分）17 スウェーデン
ポーランド 23―14 オランダ
ルーマニア 21―19 ブルガリア
スウェーデン 18―13 スペイン
ポーランド 28―19 ルーマニア
スウェーデン 23―17 オランダ
ブルガリア 23―10 スペイン

【順位】①ルーマニア4勝1敗②ブルガリア3勝1分1敗③ポーランド3勝1分1敗④スウェーデン3勝2敗⑤オランダ1勝4敗⑥スペイン5敗。

▽11・12位決定戦

オーストリア 24（延）22 スペイン

▽9・10位決定戦

オランダ 25―15 フランス

▽7・8位決定戦

スウェーデン 21（9―10、9―8、…、1―1、2―0）19 デンマーク

▽5・6位決定戦

西ドイツ 26（12―8、14―13）21 ポーランド

▽3・4位決定戦

ノルウェー 22（15―7、7―14）21 ブルガリア

▽決勝戦

チェコ 21（9―10、12―10）20 ルーマニア

アジア代表、苦しい組み分け

IHF（国際ハンドボール連盟）は、来年12月1日から13日までハンガリーで開く第8回世界女子選手権の予選リーグ組み分けを、次のように決め、発表した。

上位3カ国にロサンゼルス・オリンピック出場権が与えられる。

▽A組 東ドイツ、ハンガリー、ノルウェー、アメリカ大陸代表
▽B組 ソ連、ルーマニア、ブルガリア、アジア大陸代表
▽C組 ユーゴ、チェコ、西ドイツ、コンゴ

＜注＞アジア大陸代表は、強豪にはさまれた。

ソ連はモスクワ・オリンピック優勝国、ルーマニアはBグループ2位とはいえ、かつての女王。決勝リーグ（ベストシックス）進出には、2勝が必要だけに苦しい。

日本が、アジア代表になった場合、ブルガリア戦を確実にとり、ルーマニア戦は、モントリオール・オリンピックの激戦を思い出すこととなろうか。

韓国、中国など動き活発

一九八八年のオリンピックを首都・ソウルに迎えることとなった韓国は、全スポーツ界が、意欲的な強化に乗り出しているが、このほど、男子ハンドボールチームが初のヨーロッパ遠征を行ない、フランス、西ドイツ、オランダなどを転戦すると発表した。

また、中国男子も新春早々、ヨーロッパ遠征を計画しており、1月末のスペイン国際で、日本と顔を合わせるかもしれない。

このほか、インドが来春4月、初の国際大会をハイデラバッドで開き、すでにエジプトの出場が明らかにされている。

アジア球界の積極的な動きは、シーズス毎に、ますます強まっている、といってよい。

西ドイツの内紛が表面化

一九七八年の第9回世界男子選手権（デンマーク）で、無名の若手を引きつれ、みごとに西ドイツにワールドタイトルをもたらした鬼才、V・ステンツェル監督（ユーゴ国籍）が、2連覇を目指すべき、来年の第10回世界選手権を3カ月後に控え、突然、ナショナルチームの主力、スペングラー（主将）、エーレット、ニーマイヤーらの〝放出〟を言明、ヨーロッパのファンや専門家を驚ろかせている。同監督と主力選手の不仲は、これまでにも伝えられていたが、この時期になって表面化するとは思わなかった。新陣容では、連覇はとても難しい、と伝えられる。

T・iB48が関東地区で交歓試合

西ドイツの名門クラブ「ツルゲンマイン・ベルリン・一八四八」（略称TiB48）のH・フリューアウフ団長ら男子9、女子12選手（ほかに滞同者8人）が9月21日に来日関東周辺のチームと交歓試合を行った。

TiB48は、最初の来日希望では、男女とも、若手を中心としたチーム編成と伝えてきたが、9月上旬に確定メンバーとして、日本協会へ連絡されたのは、オールドタイマーが主体になっていた。

このため、日本協会では、本格的な国際親善試合を準備していた東北地域の各協会に開催を引きうけてもらうのはムリと判断、関東周辺での交歓試合に切り替えた。

TiB48は、その名が示すように一八四八年創立という西ドイツでも、もっとも古い歴史を持つ名門スポーツクラブ。ハンドボール、テニスなど18競技に三千二百人の会員を持っている。

ハンドボール部門は、一九二五年に発足し、男女とも11人制時代は、国内ベストファイブにつねに名を連ねる強豪として知られた。

現在は男女二百人のメンバーが、年令別に12のチームに分かれて活動、男女のシニア一軍は、ベルリン地域リーグに所属している。

来日チームは、男女とも、シニア一、二軍の混成で「男子は7人女子は5人のレギュラーが来日できなかった」（フリューアウフ団長）。

TiB 48 来日メンバー

〔男子〕

	氏名	年令	身長
GK	K・H・ドウベル	(47才)	171cm
	J・カルトネル	(38　)	180
FP	S・ナンケ	(42　)	178
	C・ロンチ	(31　)	184
	K・P・キッケンベルグ	(27　)	197
	B・ジェリンスキー	(25　)	183
	R・ベンディッシュ	(21　)	186
	C・パウル	(21　)	184
	O・ヴディシュ	(20　)	185

〔女子〕

	氏名	年令	身長
GK	S・シュミット	(26　)	172cm
FP	I・バイスハイツ	(45　)	165
	I・V・グリスチンスキー	(42　)	167
	I・デイエルクセン	(40　)	154
	P・フールマン	(37　)	168
	M・L・バルリッシュハウザー	(33　)	158
	G・ニーデルツ	(32　)	164
	P・S・ハブスト	(28　)	165
	S・エベルス	(24　)	177
	A・ルッツ	(24　)	172
	R・マリエス	(23　)	166
	G・ウルバン	(19　)	172
団長	H・フリューアウフ		

○…試合記録…○

▽男子

日体大 36―22 TiB48
栃の葉ク 36―12 TiB48
関東学連ジュニア 35―18 TiB48
TiB48 19―13 自衛隊古河
中村荷役 26―12 TiB48

▽女子

日体大 26―12 TiB48
日立栃木 26―10 TiB48
東女体大 23―16 TiB48
TiB48 16―17 全自衛隊連合
TiB48 9―8 武蔵野ク

日本協会・荒川専務理事の話

来日交渉を始めたころは、日本のクラブ勢にとって刺激のある相手と考え、新機軸の親善シリーズを組めると思っていた。

ところが、来日3週間前になって、小人数のうえ、レギュラーの若手が半数以上来ないことが分かり、これでは、地方におけるハンドボールのイメージダウンになると判断、混乱と非難を覚悟で、東北転戦をキャンセルした。

オールドタイマー頑張る

○…日本協会が急きょアレンジした関東での男女各5試合の〝友好試合〟のうち、唯一の「公式戦」ともいえるTiB48と自衛隊チームの試合は、10月3日午後、東京・駒沢体育館で行なわれた。

6年前、韓国社会人選抜(男子)と対戦して以来、久々の〝国際試合〟とあって、自衛隊ハンドボール関係者は、大変な力の入れよう。

入場行進、国歌吹奏までつけた開会式は、選手紹介、記念品交歓とつづく本格的なもの。

この扱いに、TiB48もすっかり調子に乗り、女子は、前半から長身を活かしたプレーで、未経験者の多い全自衛隊連合を圧倒。45才のバイスハイツが倒れこみシュートを見せるなど、快勝した。

男子も、巨漢キッケンベルグをはじめ、平均身長185cm、同体重86kgの〝すごみ〟に優るTiB48が前半終了間ぎわの連続ゴールで優位に立ち、47才のGKドウベルの好守もあって、勝利を飾った。

交渉段階でのリサーチさえ間違えなければ、こうしたタイプのクラブを迎えての国際交流も、大いに意義があることを印象づける〝駒沢大会〟といえた。

プレス・ルーム <34>

杉　山　　茂
――（NHK運動部）―

■「名古屋オリンピック」の敗戦

名古屋でオリンピックを、という夢は、文字どおり夢に終ってしまった。

名古屋か、ソウルか。六年後のオリンピック夏季大会の開催地を国際オリンピック委員会（IOC）が投票で決める日（9月30日夜＝日本時間）、私は、仕事で、日本オリンピック委員会（JOC）のかたたちの詰めている東京渋谷の岸記念体育会館の一室に居た。

JOC常任委員をつとめる荒川清美氏（日本ハンドボール協会専務理事）の顔も、当然、そのなかにあり、各氏とも「名古屋の当選」に自信たっぷりだった。

私も、現地（西ドイツ・バーデンバーデン）からの情報などで、〝名古屋濃厚〟を聞いていたし、六年後のハンドボール代表チームの顔ぶれは、どんなものになるだろう、などと楽しい空想をしながら、その時を待っていた。

だが、結果は、ご承知のとおりソウルが名古屋を大差で破った。

テレビの画面から「ソウル」の声が流れた時、JOC各氏の表情は引きつり、荒川氏は、自からを責めるように、頭を何回も叩いた。

荒川氏は、十七年前の東京オリンピックで、ハンドボール（男子11人制）が、いったん実施を決められながら、最後の所で削除された悔しい思い出を、この夜、一気に払えると信じて、出席していたのだ、と思う。

残念だが仕方がない。昭和15年の返上といい、よくよく日本に〈オリンピック・ハンドボール〉は縁がないのだ。

敗れたその日から、その原因がいろんな角度から、分析されている。いちいち、もっともだが、私は、名古屋や、日本のスポーツマンたちの盛り上りの不足が、最大因だと思う。

身近かなところでは「名古屋」の声が出はじめたころ愛知ハンドボール協会のかたたちは、たいへんな張り切りかただった。

ところが、時が経つにつれ、その勢いは萎え、「行政先行」だのなんだのという言葉を吐くかたが多くなった。

こうしたムードが芽ばえてきた時、すでに、この日の結果を、予測してよかった。

ハンドボール界にとどまらず、全スポーツ界が、似たりよったりの雰囲気だったからである。

火つけ役が〈政治家〉であったにしても、それを燃えあがらせる役は、やはり、スポーツ界に籍をおく人々がつとめるべきである。

言葉をきつくしていうならば、政治に引きずられるスポーツなどに、成功はないのだ。

「むしろ、ソウルに決まってよかった」――そんな気持ちが、私の心のどこかに秘んでなかなか消えないことが、なんとも腹立たしい。

■刺激剤となるか李コンビ登場

李相玉、李京姫コンビを見に出かけた。

大崎電気の新戦力、日本リーグが迎えた初の外人選手。

会場の志木市民体育館（11月14日）は、いつもより、ハンドボール関係者や、大人のファンの数が多い。

彼女たちの〝実力〟は、充分に知れわたっていたし、同時に、上昇・韓国の力を知る意味でも、足を運ぶ価値が、あったからだろう。

李相玉は51年の日韓学生で、李京姫は、年の日韓高校で、日本のファンの前に初めて姿を見せた。

李相玉のフットワーク、ボディコントロール、パス・テクニックは際立つものがあり、李京姫の大たんな攻撃ぶりと、スピード豊かなシュートにも、目を見はらされたものだ。

当時、何人かの人たちと、感想を述べあったが、全員が「韓国にもすごい選手が出はじめた。日本も、うかうかしていられない」といった。そして、それは現実になった。

少々オーバーにいえば、彼女たちの出現によって、韓国は、宿願の打倒日本を果せたのである。

その二人が、日本チームのユニホームを着る。そして、ファンが集まる。時の流れ、という以外にうまい言葉は見つからない。

はたして、李コンビのプレーはコートサイドや、スタンドの息をのませた。

特に、李相玉のパス・テクニックは、チェコの世界女子選手権でなみいるヨーロッパ関係者の舌を巻かせた、といわれただけあって初見参の時の比ではなかった。

二人に付き添って来日した李寿昶氏（元韓国女子ナショナルチーム・コーチ）に聞けば「本来の調子には程遠い」という。

「大崎のレシーバーの腕が上がれば、もっと多彩なテクニックを出せる」ともいった。

李京姫の強肩も、シーズンが深まるにつれ凄みを増しそうだ。

二人の登場で、いささか、だれ気味の日本リーグに〝活〟が入るだろう。全日本総合（12月・東京）への期待も、高まる。

それはそれで楽しいが、日本選手の奮起が、これまで以上に望まれることにもなる。

数日後、大崎電気のオーナー・渡辺和美氏に会って話が聞けた。

「李コンビは、大崎優勝のために招いたのではないよ。日本の女子界の刺激にと思ってね…」。考えさせられる言葉ではありませんか。

日本のハンドボールゲームの数量的分析
〈その1〉

関西学院大学教授　新井節男
関西学院大学専任講師　竹中晃三

はじめに

私達はハンドボールゲームを直接に目でみたとき、ゲームの終了後には前後半の得点と合計、そして印象に残ったプレーだけが頭の中に残ります。しかし、オフィシャルには記録用紙があり、記録員は懸命に試合の流れをおって時々刻々の出来事を紙面に書き込んでゆきます。その内容は、誰がシュートしたか、それが得点になったかどうか、誰が反則（パーソナルファール）をしたか、それが警告になったか、退場になったか、ペナルティ・スローになったか、などについてであります。

さて、これらの記録はどこにどのように有効利用されるのでしょうか。野球などでは、スポーツ新聞などにつぎつぎと記録が示されてゆきますが、ハンドボールの試合の時間経過にしたがった得点や流れは、そのごく一部が戦評というかたちで世間の目にふれるにすぎません。とくに、数多くの日本のトップレベルの試合など観るチャンスのない地方の人々にとって現在の日本のハンドボールのゲームはどんなものなのか、よく解らないのが現状であります。よく知っているという人でも、アナログ的に知っていて、デジタル化されたものとしては知らないのが普通だと思います。

そこで、私達は日本のトップレベルのゲーム、すなわち日本リーグのゲームの記録用紙をもとに、その内容を数量化して、どんなことが起っているのか分析してみました。大体予想されるようなことが解ったというのが事実ですが、予想を裏付けるということも大切なことですし、また案外こんなことがということも、人によってはあるかと思います。記録用紙に残ったものを基にしているわけですから、記入もれもあるだろうし、記入まちがいも当然考えられます。しかし、大局からみれば僅かのことは枝葉末節ということでみすごすことにして、大体どんなことがあるのかと軽い気持でみていってほしいのです。

日本リーグは昭和51年からはじまりましたが、今ここで取り扱うのはリーグの運営も選手も安定してきたごく最近、すなわち昭和54、55、56年（第4、5、6回）のもので、男子一部・男子二部・女子一部の三グループについて、それぞれを別個に扱ってゆきます。

（I）各年度別・グループ別の成績の単純算術平均

(A)勝ちチームと負けチームの取得得点数

男子では26～27点とらないと勝てないということでしょうか。大体10点の得点差がついてしまっていることは、一部も二部もチーム間格差が大きいことを示しています。5点差ぐらいになると白熱戦としてもっと盛り上がるのでしょう。女子については、昭和56年度から30分ハーフになったことをとくに注意して下さい。25分ハーフの昭和54、55年度は6点ぐらいですからよかったのですが、昭和56年の11点差は問題です。

勝ちチーム取得得点数

	男子一部	男子二部	女子一部
昭和54年	26.6±6.0(15−42)㉚	25.5±6.4(14−39)⑮	16.2±4.2(10−24)㉕
昭和55年	27.3±5.7(20−40)⑭	24.6±5.7(16−32)⑮	16.1±3.5(9−25)㉗
昭和56年	27.1±5.5(16−37)㉙	28.1±6.1(17−40)㉗	23.2±6.3(12−36)㉒

負けチーム取得得点数

	男子一部	男子二部	女子一部
昭和54年	16.7±2.3(10−21)㉚	15.1±3.5(9−21)⑮	9.8±2.9(6−18)㉕
昭和55年	15.9±4.2(9−22)⑭	14.4±2.5(11−19)⑮	10.0±2.8(4−16)㉗
昭和56年	18.3±3.1(10−25)㉙	17.0±3.5(11−24)㉗	12.2±4.0(5−19)㉒

〔平均得点±標準偏差（最小−最大値）ゲーム数〕

(B)ーチームの5分間毎の得点、シュート数、シュート成功率

これはグラフであらわしてみました。昭和54、55、56年の三年間を平均したものと、昭和56年だけのものに分けた理由は女子の30分ハーフの改正によるものです。横軸は5分間毎で、後半は30～35というところからはじまります。

男子二部はシュート数ばかり多くて得点が少ないことがはっきりしています。シュート成功率が30分ハーフの後になるほどよくなってくるのは、オフェンスのウォーミングアップのせいでしょうか、ディフェンスの守り疲れからくるものでしょうか。昭和56年の女子のシュート成功率のうなぎ昇り、最後に50％はほどになっているのは、シュート数の低下からみて明らかにディフェンスの弱さでしょう。まだまだ日本の女子ハンドはロングタイムのスタミナがないことを如実に物語っています。

(C)1試合に2点以上とったプレーヤーが何人いるか

ハンドボールはチームプレーで

す。強いチームほど全員が力を合わせている訳ですが、いつもアシストにまわる人、シューターになる人と分業があったのでは困ります。1試合に1点はフロックで得点できるので、2点以上とった選手が何人いるかということがチームの得点能力の一端を示すものと考えられます。その値は表2の通りです。

一試合に2点以上とったプレーヤーの数

	男子一部	男子二部	女子一部
昭和54年	5.17（2－8）	4.50（1－8）	3.20（1－6）
昭和55年	4.77（2－7）	4.40（2－8）	3.19（1－7）
昭和56年	4.88（2－8）	4.87（2－8）	4.04（1－7）

〔1チーム平均人数（最低－最高）〕

男子一部では5人の選手が2点以上をとっており、最低が2人、最高が8人ということですが、女子では35人で最低1人というのもあります。2点以上の人が1人というのは、全くワンマンチームで、これでは勝てるはずがありません。のちに勝利との相関を調べたものをおみせします。

(D)一試合に与えられた警告と退場

昭和56年8月からのI・H・Fのクリーンハンドボールというキャッチフレーズにみられる対人動作、プレーイングエリア内外での立居振舞、言動の正常化は、日本でいち早く取り入れられました。しかし、全国津々浦々にまで浸透するのには時間がかかるものです。肉体的に、心理的に他人を侵害するプレーには一段厳しい態度を審判はとるべきですし、選手は相手の人格の尊厳をもっと大切にしなければなりません。

昭和54・55年と56年をくらべて男子一部・二部では警告がやや減って退場がやや増えた傾向にあります。これは審判がよりつよく罰を与えた結果でしょう。しかし、女子については同様でありません。女子ゲームが正常化されてクリーンになったとは現実の試合を数多くみている私には考えられません。

女子ゲームを数多く担当する審判が強い態度でないことを反映していると考えます。

ここまで各年度、グループ別の成績の単純算術平均の項はおわりです。次は勝敗といろいろの要素との相関について述べます。そして第Ⅲ回目には各チームの成績を赤裸々にみせつけることを考えています。

なお表2・3、図1を作成した対象の試合数は表1に丸で囲んだものです。

一試合に与えられた警告と退場

警告数	男子一部	男子二部	女子一部
昭和54年	1.82（0～5）	1.97（0～5）	1.70（0～5）
昭和55年	1.92（0～5）	1.93（0～6）	1.58（0～5）
昭和56年	1.52（0～5）	1.72（0～5）	1.62（0～5）
退場数			
昭和54年	0.46（0～4）	0.43（0～2）	0.50（0～5）
昭和55年	0.46（0～3）	0.37（0～2）	0.46（0～4）
昭和56年	0.86（0～4）	0.87（0～3）	0.24（0～2）

〔一試合平均数（最低～最高）〕

HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064

3065

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。

あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas

The science of sport.

KSG 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06・305-1431：〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03・634-1411

表4　選択全身反応時間（sec）

被検者	1.　（左　手）	2.　（左　足）	3.　（右　足）	4.　（右　手）
YAMA	0.667（0.077）	0.728（0.174）	0.836（0.174）	0.676（0.141）
ARAK	0.663（0.089）	0.653（0.092）	0.698（0.072）	0.653（0.053）
SATO	0.700（0.201）	0.619（0.089）	0.581（0.086）	0.644（0.106）
TAMA	0.633（0.102）	0.626（0.070）	0.650（0.071）	0.664（0.085）
ITOU	0.600（0.089）	0.712（0.244）	0.677（0.079）	0.631（0.063）

（ ）：SD

3）選択全身反応時間について

ハンドボールGKのシュート阻止動作に出来るだけ近い様式で選択全身反応時間を測定した（表4）。

ハンドボールGK経験者と未経験者では，4コーナーとも統計的に有意な差があった（1％水準）経験者男女では統計的有意差は認められなかった。被検者個々の4コーナー間には，被検者YAMAの左上と右下の場合（5％水準）を除き，統計的有意差は認められなかった。

考　察

本実験は正面から撮影したスタンディングシュート（ペナルティースロー），ジャンプシュートの映画を実際のシュートに近い状態で見せ，シュート阻止チャンスと判断した時点で被検者自身のスイッチ操作により映写を停止し，シュート阻止動作開始時間を測定した。シュート阻止時間は，シュート阻止時期判断の決定からスイッチ操作までの動作時間が含まれている。浅見[1]の測定した全身反応時間（成人）のうち，動作時間約0.15秒をシュート阻止動作開始時間0.27秒（スタンディング），0.26秒（ジャンプ）から引けば，投げの主動作の始まりから0.12秒，0.11秒後にシュート阻止の意志を決定したことになる。投げの主動作に移る前後にシュート阻止動作がみられたという大西[2]の報告とは時間的な配列からみて異なった結果であった。

シュート阻止動作開始時間，リリース後ボールがゴールへ到達する時間（スタンディング：平均0.33秒，ジャンプ：平均0.29秒），シュート阻止動作に近い状態での選択全身反応時間を対比させれば，リリース後0.33秒，0.29秒にボールはゴールに到達する。したがって，主動作の始まりからシュート阻止の意志決定までの時間（0.12，0.11秒）を引けば，意志決定からボールがゴールに到達する時間，すなわち，シュート阻止動作の許容時間は，スタンディング0.43秒，ジャンプ0.39秒となる。本実験のシュート阻止動作時期の結果からすれば，時間的にはほとんどのシュート阻止に成功する。しかし，スイッチ操作動作と実際のシュート阻止動作とは動作の内容が異なり，実際のGK動作に近い様式で測定した選択全身反応時間（0.65秒）からみて，大部分のシュート阻止には失敗することになる。

おわりに

以上のことから，シュート阻止成功は，出来るだけゴール遠方からシュートさせるディフェンス技術の向上，シュート方向の読みに基づく阻止動作技術の向上にあると考える。続行すべき課題は，実際のGKの動作分析とシュート方向の変更可能時期を探ることにある。

参考文献

1）浅見高明ら：全身反応時間とその応用，オリンピア，7，18-27，1961.

2）大西武之：ハンドボールの巧みさについて，体育の科学，23，308-312，1573.

表1　被　検　者

	年齢(歳)	身長(cm)	体重(kg)	指極(cm)	GKの経験(年)
YAMA	21	175	73	165	9
ARAK	25	174	63	170	7
SATO	22	175	65	171	7
TAMA	20	172	62	165	1.5
ITOU	22(女)	163	59	160	2.5
TOMA	42	165	61	163	0

表2　シュート阻止の動作開始時間
（バックスウィングの頂点基準）

被　検　者	スタンディング		ジ ャ ン プ	
	X	SD	X	SD
YAMA	0.293	0.131	0.235	0.065
ARAK	0.214	0.114	0.129	0.058
SATO	0.262	0.114	0.339	0.092
TAMA	0.301	0.129	0.300	0.060
ITOU	0.275	0.112	0.284	0.080
TOMA	0.285	0.116	0.287	0.075

がおこなわれているようであった。GK経験の有無によるシュート阻止動作開始時間の差は統計的には有意でなかった。ジャンプシュートでは，軸足離地後0.12～0.33秒の間にシュート阻止動作の開始がおこなわれた。GK経験7年の被検者ARAKのみ，他の被検者に比べ0.02～0.24秒と早い傾向にあった（他者と5％水準で有意)。GK経験の有無，男女差は統計的に有意ではなかった。

2）シュート阻止動作の開始時期

シュート動作をリリース前，リリース時，リリース後の3期に分け，それぞれの時期にシュート阻止動作の開始が起った頻度を割合としてみた（表3)。

表3　シュート阻止動作開始の出現時期（％）

被　検　者		リリース前	リリース時	リリース後
YAMA	(S)	4	36	60
	(J)	36	12	52
ARAK	(S)	48	16	36
	(J)	80	12	8
SATO	(S)	20	24	56
	(J)	0	20	80
TAMA	(S)	0	24	76
	(J)	4	8	88
ITOU	(S)	12	24	64
	(J)	8	4	88
TOMA	(S)	0	20	80
	(J)	8	12	80

(S)：スタンディングシュート
(J)：ジャンプシュート

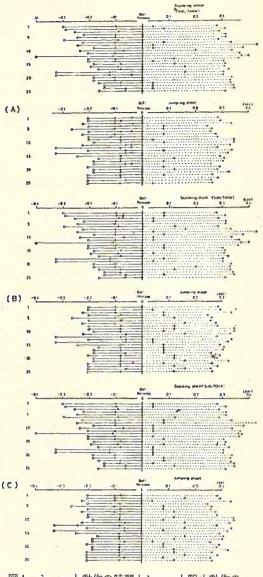



図1　シュート動作の時間とシュート阻止動作の開始時期
（A：GK経験9年。B：GK経験1.5年。C：未経験者）○：（スタンディング）バックスウィングの頂点。(ジャンプ)軸足離地。△：体幹回転の開始。：シュート阻止動作開始。◎：シュートボールのゴール到達。

シュート阻止動作の開始時期は，スタンディングシュート，ジャンプシュート共約80％がボールリリース後であった。

図1はシュート阻止動作開始時期と同時に，スタンディングではバックスウィングの頂点，ジャンプシュートでは軸足離地時，体幹の回転開始時，ボールのゴール到達時をプロットした代表例である。各被検者とも，およそボールリリース後0.2秒までにシュート阻止動作開始がおこなわれた。

昭和55年度トレーニングドクター群報告書より①

<1> ハンドボール競技のシュートとゴールキーパーの対応動作について

はじめに

現代のスポーツは，時間とのたたかいだといわれている。陸上競技や水泳競技，あるいは，スキー，スケート競技については，100分の1秒，1000分の1秒という時間単位が勝負を決するようである。

ハンドボール競技においても攻防の瞬間的な場面に，そのゲームの勝負を決する場合がみられる。シューターとゴールキーパーとの対応は，その最も代表的な例といってよい。シューター側からいえば，ゴールまでの距離やディフェンスの位置，ゴールキーパーの位置に対し，投げだすボールの方向や速度が，一方，ゴールキーパー側からいえば，ディフェンスの位置やシューターの投フォームから投げだされるボールの方向と，速度を読みとり，正確で素早い反応動作が攻防の決めてとなる。これらのことはいずれも時間とのたたかいといってよいであろう。

本研究の目的は，シュートとゴールキーパーの対応関係を投げだされたボール速度，ゴールキーパーのシュート阻止時期など，主に時間的な要素から明らかにし，シュート技術あるいは，ゴールキーピングに関する技術の指導に役立たせることを意図している。

研究方法

1）実験用シュート映画の作製

スタンディングシュート(ペナルティースロー)，ジャンプシュート（ゴールから8mの位置）各30試技を直角2方向，すなわち，シュートの側面(12m)，正面（8m：ゴールライン）から16mmカメラ2台を用い撮影した。1カ所のスイッチで電動により同時に，2台のカメラが駆動するようにした。コマ送り速度は側方カメラ毎秒49コマ，正面カメラ毎秒24コマの速さであった。なお，側方からは毎秒200コマの撮影も平行しておこなった。フィルムは，高速度用カラーフィルムを使用した。正面から撮影したフィルムは毎回のシュート動作が約2秒のインターバルで映写できるように編集した。シューターは実業団日本リーグ所属の選手2名である。映画のシュート速度は，初速でスタンディングシュート平均23.0m/sec（SD：2.10），ジャンプシュート平均26.7m/sec（SD：2.27）であった。

2）シュート阻止動作開始時間の測定

正面から撮影されたスタンディングシュート，ジャンプシュートの映画を実際のシュートに近い状態で観察し，シュートが阻止できると判断した時点で被検者のスイッチ操作によって映写を停止させ，その時のコマ数から，スタンディングシュートの場合は，準備動作のボールが最後方に引かれた時点，ジャンプシュートの場合は，軸足の離地時点を基準に，それぞれシュート阻止動作開始時間を測定した。

3）選択全身反応時間の測定

被検者の前方5m，地上1.6mの位置赤にランプ4コ（①:左上，②:左下，③:右下，④：右上）を15cm間隔の正方形に配置し刺激とした。反応は，ハンドボール競技におけるゴール4コーナーへのシュートとを想定し，被検者の斜前方約1mの左右に，支柱を立て（支柱間1.5m），各支柱の上方（地上1.8m），下方（地上25cm）に一辺25cmのタッチ板をとりつけ，タッチ板に装置したon. offスイッチによって反応シグナルとした。測定に当っては，ランプ点灯を合図に指定された（①点灯—左上タッチ板，②点灯—左下タッチ板，③点灯—右下タッチ板，④点灯—右上タッチ板）タッチ板に動作するように指示した。点灯の順序については，序列性がないよう注意した。試技は各位置とも20回とした。

4）被検者

ハンドボール実業団日本リーグに所属する男子GK1名，中部地区学生リーグに所属する男子GK2名，女子1名，中部地区クラブチームに所属するGK1名，ハンドボールGK未経験者1名の計6名である。なお，被検者の身体的特徴を表1に示した。

結果

1）シュート阻止動作の開始時間

スタンディングシュートの場合は，ボールの最後方に引かれた時，ジャンプシュートの場合は，軸足が離地した時をそれぞれ基準として，シュート毎のシュート阻止動作の開始時間を測定した（表2）。

スタンディングシュートではボールが最後方に引かれた時期から，0.26～0.3秒後にシュート阻止動作の開始

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

ライヴ・ビークル
「シティ」

HONDA®

各地の記録

◆熊本県高校新人大会

（11月7・8・14・15日）

＜男子＞

○Aパート

▽1回戦
鎮西 27—9 八代農
マリスト 21—16 大矢野
商大付 20—15 熊本市立
人吉 24—14 御船

▽2回戦
鎮西 18—8 商大付
マリスト 11—9 人吉

▽代表戦
マリスト 16（9—3、7—8）11 鎮西

○Bパート

▽1回戦
小国 14—12 玉名

▽2回戦
東海大二 20—4 松島商
真和 13—7 天草農
小川工 19—7 水産
小国 10—8 第二

▽3回戦
東海大二 13—4 真和
小川工 20—6 小国

▽代表戦
東海大二 15（7—5、8—4）9 小川工

○Cパート

▽1回戦
熊本西 15—7 熊本

▽2回戦
牛深 20—14 熊本西
八代工 12—7 水俣工
氷川 17—13 天草工
熊本市商 36—6 菊池濃

▽3回戦
氷川 22—8 牛深
熊本市商 23—9 八代工

▽代表戦
氷川 18（10—6、8—6）12 熊本市商

○Dパート

▽1回戦
天草 16—12 熊本工

▽2回戦
宇土 20—13 天草
九州学院 27—6 松橋
八代 27—7 河浦
済々黌 15—14 水俣

▽3回戦
九州学院 19—9 宇土
済々黌 21—19 八代

▽代表戦
九州学院 18（14—6、4—5）11 済々黌

＜女子＞

○Aパート

▽1回戦
氷川 22—6 信愛

▽2回戦
熊本女商 11—5 氷川
牛深 17—9 球磨商

▽代表戦
熊本女商 15（9—3、6—2）5 牛深

○Bパート

▽1回戦
八代 4—3 人吉
矢部 18—8 小国

▽2回戦
八代 12—7 鹿本商工
矢部 13—11 松島商

▽代表戦
矢部 11（10—2、1—5）7 八代

○Cパート

▽1回戦
九州学院 14—13 天草農
玉名 19—12 熊本市商

▽2回戦
松橋 23—6 九州女学院
玉名 13—11 尚絅

▽代表戦
松橋 20（10—2、10—4）6 玉名

○Dパート

▽1回戦
倉岳 18—8 鎮西

▽2回戦
天草 9—4 水俣
倉岳 11—9 熊本市立

▽代表戦
倉岳 14（5—4、9—2）6 天草

◆長崎県高校新人大会

（11月14・15日）

＜男子＞

▽1回戦
長崎北 不戦勝 西彼
佐世保西 20—14 鹿町工
長崎日大 16—12 波佐見
長崎南 22—8 口加
佐世保商 22—12 佐世保東商

▽2回戦
佐世保北 13—12 長崎北
長崎日大 32—20 佐世保西
瓊浦 24—10 長崎南
長崎工 28—9 佐世保商

▽準決勝
長崎日大 14—12 佐世保北
瓊浦 24—9 長崎工

▽3位決定戦
長崎工 17—15 佐世保北

▽決勝
瓊浦 19（7—9、12—4）13 長崎日大

＜女子＞

▽1回戦
長崎北 10—8 島原農
佐世保商 24—5 式見
佐世保北 20—8 有馬
佐世保西 8—7 長崎日大

▽準決勝
佐世保商 14—3 長崎北
佐世保北 11—10 佐世保西

▽3位決定戦
佐世保西 17—3 長崎北

▽決勝
佐世保北 10（5—2、5—6）8 佐世保商

◆宮崎県中学校秋季大会

（11月15・16日）

＜男子＞

▽決勝リーグ
小林 23（8—4、15—3）7 加久藤
田野 24（11—2、13—2）4 高鍋西
高鍋西 20（10—3、10—1）4 加久藤
田野 24（13—3、11—3）6 加久藤
高鍋西 10（3—4、7—4）8 小林
田野 18（8—4、10—2）6 小林

【順位】①田野3勝②高鍋西2勝1敗③小林1勝2敗

＜女子＞

▽決勝リーグ
田野 17（11—1、6—0）1 宮大附属
加久藤 14（5—2、9—5）7 小林
加久藤 13（7—0、6—2）2 宮大附属
小林 16（7—1、9—4）5 宮大附属
田野 12（5—1、7—5）6 加久藤
田野 14（10—5、4—4）9 小林

【順位】①田野3勝②加久野2勝1敗③小林1勝2敗

◆宮崎県高校新人大会

（11月21・22日）

＜男子＞

▽予選リーグ

○Aブロック
小林工 46—2 妻
小林工 40—9 都城商
宮崎工 35—5 都城商
宮崎工 45—8 妻

○Bブロック
泉ヶ丘 34—12 宮崎西
泉ヶ丘 40—11 西都商
日南 30—15 西都商
宮崎西 19—15 日南

○Cブロック
宮崎南 32—8 日向工
宮崎南 49—1 宮崎第一
都城西 51—9 宮崎第一
都城西 38—11 日向工

○Dブロック
延岡 28—12 延岡東
都城工 23—17 延岡東
都城工 21—12 日南工
延岡 25—2 日南工

▽決勝トーナメント1回戦
小林工 30—10 都城工
泉ヶ丘 20—15 都城西
宮崎工 17—15 宮崎南
延岡 27—10 宮崎西

▽2回戦
小林工 20—13 泉ヶ丘
宮崎工 17—16 延岡

▽決勝
小林工 26（15—9／11—6）15 宮崎工

〈女子〉
▽予選リーグ
○Bブロック
小林商 16—5 都城商
小林商 19—1 宮崎南
宮崎南 23—2 妻
都城商 18—4 妻

○Bブロック
本庄 20—3 宮崎商
泉ヶ丘 14—12 本庄
泉ヶ丘 23—6 宮崎商

○Cブロック
宮崎西 20—17 日南
日南 20—18 延岡東
宮崎西 19—8 延岡東

○Dブロック
延岡 14—11 西都商
延岡 18—5 日南振徳
日南振徳 19—4 宮崎女子
西都商 18—4 宮崎女子

▽決勝トーナメント1回戦
小林商 17—7 西都商
泉ヶ丘 18—11 日南
宮崎西 13—12 宮崎南
延岡 9—5 本庄

▽2回戦
小林商 20—7 泉ヶ丘
延岡 14—7 宮崎西

▽決勝
小林商 14（4—6／10—5）11 延岡

◆高知県中学校秋季大会

（11月23日）

〈男子〉
▽1回戦
朝倉 17—4 鷹ヶ池B

▽準決勝
土佐A 34（17—6／17—6）12 朝倉
土佐B 19（8—2／11—6）8 鷹ヶ池A

▽3位決定戦
鷹ヶ池A 9（5—4／4—4）8 朝倉

▽決勝
土佐A 29（15—5／14—2）7 土佐B

〈女子〉
▽1回戦
香長 13—3 西部

▽準決勝
土佐女 13（8—3／5—1）4 香長
小川 12（4—5／8—3）8 下田

▽決勝
小川 10（5—4／5—3）7 土佐女

◆香川県高校新人大会

（11月22・23日）

〈男子〉
▽1回戦
丸亀 9—8 高松西
高松商 26—12 多度津工
高松 15—14 三本松

▽2回戦
丸亀 10—7 高松南
高松一 24—4 藤井
高松商 26—13 高松工芸
高松 12—5 坂出工

▽準決勝
丸亀 16（11—5／5—3）8 高松一
高松 18（9—10／9—3）13 高松商

▽決勝
高松 17（7—2／10—6）8 丸亀

〈女子〉
▽1回戦
高松 7—2 高松西

▽2回戦
高松南 8—6 高松
高松一 15—6 高松中央
高松東 16—6 丸亀
三本松 10—5 高松商

▽準決勝
高松南 12（8—5／4—3）8 高松一
三本松 6（5—3／1—1）4 高松東

▽決勝
高松南 10（4—2／6—1）3 三本松

◆第8回青森県社会人秋季大会

（12月5・6日）

〈男子〉
▽1回戦
尾上ク 27—9 青東高OB

▽2回戦
青森クA 39—18 尾上ク
青森教員ク 47—32 海自二空群
青森クB 29—21 青商ク
七戸ユニオン 34—20 野辺地ク

▽準決勝
青森クA 33—27 青森教員ク
青森クB 29—20 七戸ユニオン

▽3位決定戦
七戸ユニオン 40（18—17／22—9）26 青森教員ク

▽決勝
青森クB 27（13—9／14—14）23 青森クA

◆第19回山形県総合室内選手権

（12月5・6日）

〈男子〉
▽1回戦
大石田高 29—4 新庄工B
山形大 22—15 東根球友会
新庄クA 17—16 寒河江ク
新庄クB 21—7 矢作会A
矢作会B 20—19 東根ク

▽2回戦
真室川 20—17 大石田高
新庄工A 20—1 山形工
山形大 21—9 新庄クB
矢作会B 16—14 新庄クA

▽準決勝
新庄工A 14（6—6／8—7）13 真室川
矢作会B 19（11—6／8—4）10 山形大

▽決勝
矢作会B 17（10—7／7—5）12 新庄工A

〈女子〉
▽1回戦
竹田女高 7—6 日大山形高

▽2回戦
竹田女高 6—4 米沢女高

▽決勝
竹田女高 10（7—5／3—4）9 米沢女高OG会

「いい音」ビューティフル。

自由に気ままに楽しもう、おしゃれなミニカセットレコーダー。

新開発DNSSテープヒスノイズカット回路内蔵。

デジタル選曲機構装備。メタルテープ対応。

小さなボディながらもワイドなステレオサウンドが楽しめる《ステレオミニ6600》。2つの9.2cmスピーカーが叩き出す4.6W(2.3W+2.3W、EIAJ/DC)のハイパワーは、豊かなステレオ臨場感を再現します。また曲の頭出しに便利なデジタル選曲機構や、テープ再生中に曲間および曲間に相当する低録音レベル時の耳ざわりなテープヒスノイズをカットする新開発DNSS(ダイナミック・ノイズ・サプレッション・システム)ノイズカット回路を採用。しかもメタルテープ対応ヘッドを搭載しています。

●AM放送の同調がしやすい周波数間隔を広げたロングスケール採用 ●テレビの1、2、3チャンネルが聴けるFMワイドバンド(76〜108MHz)採用 ●FM局間ノイズをカットするFMミューティング機能つき ●フルオートストップ機構 ●ソフトイジェクト機構 ●ACアダプター付属

●9.2cmスピーカー×2 ●実用最大出力4.6W(2.3W+2.3W)EIAJ/DC ●3電源/DC:9V(単2×6)、AC:100V50/60Hz(付属ACアダプター使用)、カーバッテリー:別売りカーアダプターD-72使用 ●大きさ幅41.0×高さ13.3×奥行7.3(cm) ●重さ2.5kg(乾電池含む) ★キャリングケース(別売りL-6600 ¥4,000)もございます。

ステレオ ミニ

TRK-6600 ¥44,800

品質を大切にする〈技術の日立〉

RADIO CASSETTE RECORDER

―生活と技術をむすぶ―

日立家電販売株式会社

〒105 東京都港区西新橋2 15 12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合日立のクレジットがご利用いただけます。

●商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求はお近くの日立の家電品取扱店へどうぞ。★日立カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。★日立カセットレコーダーには保証書がついています。ご購入の際には必ず記入事項をご確認のうえ、お受取りになり、大切に保存してください。

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二〇三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五六年十一月二十五日 印刷
昭和五六年十二月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表（467）七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）